

神學總論

神學トハ廣ク之ヲ解スレバ上帝ヲ論ズルノ學問ナリ故ニ

此ノ學ナル宇宙ノ有ヨリモ廣クシテ深ク且ツ高ク其ノ及

ズ所ハ蓋シ究極ナルヲナシ「ナマ」ノ人「ゾバル」嘗テ約百ニ間

ニテ曰ク「約百記」第十一章七節ヨリ九節「汝何ゾ上帝ノ本体

ヲ究索スルヲ待ンヤ何ゾ大能者ノ全相ヲ究知スルヲ待

得ンヤ其ノ高キハ猶ホ上天ノ高キが如シ汝何ヲ爲シ得ン

ヤ其ノ深キハ陰府ノ深キニ逾ユ汝何ヲ知り得ンヤ之

ヲ量ルニ地ヨリモ寬ク之ヲ測ルニ海ヨリモ濶シト吾人ハ

今神學ニ於テ之ヲ謂フ

神學總論

米國　ゼー、デ、デビス著

神學ハ上帝ノ國

テ諸學ノ中獨リ

完全ナルヲシムル

ニシテナカシ

ラシテ安而シテ吾人

シテ安心ノ地ナキ

子高尙ナル問題ニ

テ得バ必ず能ク人心

ヲシムルコトヲ得

ル諸般ノ事物ヲ講究スル學問ナルヲ以

テ最モ高貴ナルモノニシテ又々諸ノ科學ヲ

缺ク可ラザル基本タルナリ若シ此ノ學

ニシテ天下ノ事物ハ皆テ悉ク不可思議ヲ

ラシテ安而シテ吾人ノ疑惑ハ到底之ヲ解クニ由ナク人々果

シテ安心ノ地ナキニ終ラシテ且ツ其ノ論ズル所ハ大概

子高尙ナル問題ニ涉ルガ故ニ講究ノ方法ニシテ其宜シキ

ヲ得バ必ず能ク人心ヲ潤大ニシテ又々能ク之ヲシテ高尙ナ

ラシムルコトヲ得シテ然リ而シテ之ヲ學ブノ法須クカノ嬰



二
兒ノ心ノ己レヲ空ウシテ知識ヲ深メ汲々トシテ管テ飽カ
ザルモノ、如クナラザル可ラズ只管眞理ヲ知ラントモ
ノミ勉メザル可ラズ又能ク信仰ノ大本ナル事實ト人間ノ
作爲セル學説トノ間ヲ辨シ確實ニシテ動ス可ラザルモノ
ト唯ダ然ル可ク思ハル、モノトノ間ヲ別シユトモ要ス今
マ夫レ世間人々ノ皆ナ知ラント欲スル大問題ノ存スルア
リ上帝果シテ存在スルカ上帝人ニ告語セシユトアリヤ果
シテ之アリシトセバ其ノ告語セシ所ノモノハ何ゾ人類ニ
ハ來世アリヤ果シテ之レアラバ來世ト現世トノ關係ハ如
何人ハ罪ト其ノ報果トユリ免カレ得ベキヤトハ常ニ吾人
ガ心頭ヲ挑ンテ置カザルモノニシテ其ノ他尙ホ幾多同種
ノ疑問アリ宇宙万有ニハ果シテ創始アリシヤ又々終極ア

ルベキカ万有ハ時間ト空間トニ於テ際限アリヤ否ヤ宇宙
万有ニハ大原因アリヤ果シテ之アラバ其原因ハ何者ゾ宇
宙ノ物質ハ受造ノモノナルカ若シクハ永遠自存ノモノナ
リヤ上帝ハ万有間ニ常住スルカ將々創造後其ノ自然ニ任
ズルカノ時計師ガ一タビ時計ヲ捲キシ後其自ラ解クル
ニ委シテ傍觀スルガ如キモノカ物力ハ何ニユツテ起リシ
ヤ現ニ宇宙ノ間ニ於テ諸ノ物力ヲ生ズル原因ハ如何造化
ノ工ハ今マモ尙ホ其ノ進行ノ路中ニ在ルカ物質界ハ漸々
空間中ニ延長スルモノカ宇宙万有ノ大目的ハ如何人類ノ
大目的ハ如何心靈ト物質トノ聯絡ハ如何心靈ハ不朽ノモ
ノナルカ等吾人人間ニ向フテ答辨ヲ催シテ止マザルモノ
殆ンド數フルニ暇マアラザルナリ抑モ神學ハ敢テ悉ク此

等ノ疑問ニ答ヘントハ宣言セザレモ其ノ最モ重要ニシテ
 吾人人類ガ現在ノ情況ニ在ツテ最モ先キニ知ラントヲ要
 スル所ノ疑問ヲ解釋スルヲ以テ目的トナスモノナリ
 神學講究ノ要領タル主義ヲ觀察スルニ當リ吾人ハ先ヅ第
 一ニユハ無限ノ問題ヨリト云フノ意ヲ認メ而シテ吾人ハ唯
 マ此上帝ニ關スル學問ノ僅少部分乃チ上帝ノ存在其企圖
 其事蹟其方法等ニ於テ僅カニ其一部分ヲノミ知リ得ベキ
 ヲヲ認メ然ル後チニ人類ガ最モ先キニ知ラントヲ要スル
 所ノモノ乃チ獨一眞神ノ事實及ビ其品性、人類ノ性質、罪惡
 ノ由來、罪惡ヨリ免ル、ノ方、靈魂ヲ救濟スルノ道、心靈上生
 活ノ狀態等ヲ探究セントヲ要ス乃チ斯クノ如クニシテ吾
 人ガ最モ先キニ知ラント要スル所ノ此等ノモノニ關シ吾

人ヲ啓發スル示現ノ存スルアラバ其存スルノ事實コソ正
 ニ此等ノモノ、眞理タルノ一強証ナリト云フベシ
 吾人ハ始メニ人類ノ性質ヲ講究スベシ殊ニ總ユル知識ノ
 本源タル諸直覺ノ講究ヨリ始メ確ク此直覺論ノ主義ヲ持
 シ而シテ直覺ノ人類ガ心靈上ノ生命ヲ保存スルガ爲メニ必
 要ナルヲ猶ホカノ本能ノ禽獸ガ肉体上ノ生命ヲ保存スル
 ニ必要ナルガ如クナルヲ以テ人類ニ此直覺力アルヲ否ム
 ノ道理ニ於テ甚ダ合ハザル所以ノ事實ヲ認メ人類ガ普通
 意識ノ此ノ直覺力アルヲ許セルガ故ニ到底之ヲ否ム能ハ
 ザル所以ノ意ヲ認ムベキナリ
 神學固有ノ問題ニ至ツテハ吾人ガ講論スル所ヲシテ勉メ
 テ日本人ガ當時ノ必要ニ適合セシムルヲ期スベシ乃チ

自然神學ノ範圍内ニ於テ各種ノ無神說不可思議論懷疑論
 凡神說ヲ斥ケ而ノ又一方ニ於テハ神ヲ以テ高ク万有ノ上
 ニ在リトスル全然タル超絶說ヲ斥ケ他方ニ於テハ神ヲ以
 テ全ク万有ノ内ニ在リトスル凡神的常住說ヲ斥ケザル可
 ラズ吾人ハ實ニ宇宙ノ間ニ於テカノ「ヒルベルマス、マイロ
 チンシス」氏ガ云ヘル如キ万物ノ中ニ在ルト共ニ又万物ノ
 上ニ在ル所ノ獨一天父ヲ追求シテ之ヲ發見セザル可ラズ
 氏ガ言ニ曰ク神ハ万物ノ上ニ在リ又万物ノ下ニ在リ神ハ
 万物ノ外ニ在リ又万物ノ内ニ在リ万物ノ内ニ在リト雖モ
 其中ニ籠閉スルニアラズ万物ノ外ニ在リト雖モ其外ニ離
 隔スルニアラズ万物ノ上ニ在リト雖モ其外ニ高擧スル
 ニ非ラズ万物ノ下ニ在リト雖モ其外ニ屈伏スルニ非ラ

ズ之ガ上ニ在ツテ之ヲ保護シ之ガ下ニ在ツテ之ヲ維持ス
 ト予ハ思フ氏ハ之ニ加ヘテ神ハ万物ノ内ニ在ツテ其永遠
 ノ大圖ニ應シ之ヲ運轉シ之ヲ活動シ且ツ之ヲ發達セシム
 ト云フ可カリシナリ
 吾人ハ尙ホ一步ヲ進マテ斯ノ天父ガ人類ニ何チカ啓發セ
 シトアリヤ否ヤ果シテ之アリシトセバ其啓示ハ如何ナル
 モノナルカ基督教ハ果シテ上帝ヨリ出デシ救濟ノ道ナル
 カチ知ラントチ求ムベシ而シテ予ハ基督教ノ證據如何チ講
 究スルニ當ツテハ當今世界ニ存スル基督教ノ講究ヨリ始
 マ漸次古昔ニ溯ツテ之ヲ論ズルノ日本ニ於テ最モ適セル
 方法ナルトチ認ム蓋シ基督教ノ存在ハ基督教ナル其教ノ
 眞理タル最大ノ證據ニシテ書卷中ニ叙述セラレタル總ニ

ル記録ヨリモ寧ロ幾層ノ價值アルモノナリ又吾人ハ基督
 教其教ノ存在スル所以ヨリシテ進ンデ之ガ源タル神人ニ
 論究セン基督ノ神タルコトハ基督教ノ基本ニシテ聖書ヲ解
 釋シ基督教ノ存在ヲ説明スルニ缺ク可ラザル元首ナリ是
 故ニ聖書ヲ以テ上帝ノ言語ナリトスルハ如何ナル意義ニ
 ヨルカ聖書ヲ解釋スルハ如何ナル方法ニヨランカ等ノ疑
 問ヲ決センニハ吾人須ク謹慎敬虔ノ心ヲ以テ丁寧詳密ニ
 之ヲ論議セザル可ラズ

聖書ノ記録タル人類ガ理會力高下ノ度ニ適應シタルモノ
 乃チ聖書各部ノ著作セラレタル當代ノ人々ガ理會力ノ度
 ニ適應シタルモノナルノ事實ヲ承認シ聖書中ニ存スル心
 靈上ノ眞理ハ概シテ皆表号的ノ事物ヲ以テ述ベラレタル

ノ事實ヲ承認センコトヲ要ス殊ニ當初上帝ガ心靈上ノ眞理
 チ人類ニ啓示スルノ極メテ困難ナリシ所以ヲ熟知セザル
 可ラズ實ニ上帝ハ未知ノ事物ヲ啓示スルニ既知ノ事物
 ノ名稱ヲ借り依ツテ以テ未知ノ事物ノ表号トシテ之ヲ用
 ヒザル可ラザリシナリ上帝ハ心靈的ノ事物ヲ啓示スルニ
 物質的事物ノ名稱ヲ借り依ツテ以テ心靈的事物ノ表号ト
 シテ之ヲ用ヒザル可ラザリシナリ上帝ハ無限ノ事物ヲ
 啓示スルニ有限的事物ノ名稱ヲ借り依ツテ以テ無限的事
 物ノ表号トシテ之ヲ用ヒザル可ラザリシナリ即チ心靈上
 ノ部分ヨリ之ヲ觀レバ聖書ハ表号的ノ事物ヲ以テ記録セ
 ラレタルモノニシテ實ニ表号的ノ書冊ナリト云フベシ吾
 人ニシテ善ク聖書中ニ存スル心靈上眞理ノ意義ヲ了得セ

十
ント欲セバ須ク熟ク前段ノ意ヲ服膺スベシ例セバ上帝ハ
聖靈ヲ表スルニ風ナル言語ヲ用ヒタルモ之ガ爲メニ聖靈
ハ風ヨリモ微力ニ若シクハ風ト同力ナラント断定ス可ラ
ザルハ勿論寧ロ之ヲ表センガ爲メニ用ヒラレタル表号的
ノ風ヨリモ更ニ幾層強大ナルモノタルヲ知ラザル可ラ
ザルナリ且ツ贖フト云ヒ救フト云ヒ洗フト云フガ如キ人
間ノ言語ヲ以テ「キリスト」ガ吾人人類ノ爲メニ成就セル贖
罪ノ大業ヲ表セルモ之ガ爲メニ決シテ表号タルモノヨリ
モ微少ニ若クハ之ト同位ナリト断定ス可ラズ寧ロ之ヲ表
センガ爲メニ用ヒラレタル表号的事物ノ意義ヨリモ無限
深長ノ意義ヲ有スルヲ察セザル可ラザルナリ此レ唯ダ
數百例中ノ一二ニ過ギザレハ斯ノ主義ニヨツテ進マバ吾

人ハ聖書中ニ存スル心靈上ノ真理ヲ解シ且ツ之ヲ教フル
ニ於テ太過ナカルベキヲ信ズ聖書ヲシテ正確失リナキノ
書タラシメ万世朽チザルノ書タラシメ人類ガ靈性ノ需要
ヲ満足スルノ書タラシムル所以ノモノハ他ナシ其中ニ存
スル心靈的意義ノ深長ニシテ曾テ究極スル所ナキニ在リ
吾人が實ニ同章同句ヲ讀ムト或ハ千遍ニ至ルモシカモ毎
時必ズ一層深長ノ意義ヲ得ルアルナリ
吾人ハ又聖書ノ發育生長スルヲ得ル書タルノ意ヲ承認セ
ントテ要ス願フニ舊約書ハ花萼ノ如ク基督ハ綻花ノ如ク
使徒等ガ書ト後世ノ基督教トハ共ニ果實ノ如シ
聖書ヲ批評スルニ其度ヲ越ヘズンバ所謂高批評低批評而
ガラ共ニ不可ナルナシ然レ吾人ハ獨乙人ノ諺ニ似テ浴水

ヲ投瀉スルト共ニ小兒ヲ投瀉スルガ如キアル可カラザルナリ
 聖書總論ト聖書解義學トハ共ニ日本ニ在ツテハ神學教授ノ最モ切要ナル部分ニシテ解釋法ノ大綱領トモ稱スベシ
 乃チ概シテ聖書全体ヲ解釋シ特ニ表号的ノ部分ト預言トヲ説明スル鑰鍵ナリトス
 組織神學ニ至ツテハ吾人ハ須ク其知識ノ本源ハ唯ダ上帝ノ聖言ノミナルヲ承認シ嚴ク聖書ニ録セラレタル所ノモノ、外ニ出ヅルヲ慎ミ且ツ上帝ノ聖言ニ因由セザル諸種ノ説論ヲ戒ムベキナリ「ウオン、ウーステルツエー」氏ガ言ニ曰ク真正ナル定説家ガ天啓ノ聖書ニ於ケルハ決シテ奴隸ノ主人ニ於ケルガ如キニ非ズ又裁判官ガ訟者囚徒ニ

於ケルガ如キニモ非ズ恰モ自ラ知リテ甘心依從スルモノノ關係ナリト云フベシ乃チ斯ノ如クナルガ故ニ每時聖靈ノ祐助ヲ得テ愈ヨ神言ノ深意ニ達シ益ス其奧義ヲ悟ルニ至ルモノナリト「デソマール」ノ神學者「マーテンセン」氏モ亦曰ク定説的ノ想考ハ聖書ト牴牾スルヲナカル可キハ勿論又其當否ヲ聖書ニヨリテ檢定ス可キモノニシテ且ツ當ニ能ク聖書ノ教理ニ從フテ之ヲ長養シ常ニ少壯發育ノ力ヲ有セシメザル可ラズ聖書ハ固ト神靈ノ感格ニヨリテ述ベラレ又其作用ヲ表彰スルノ書ナルガ故ニ其中ニハ絶ヘズ發育スルヲ得ベキ無限ノ萌芽ヲ包藏シテタトヒ人爲ノ定説ハ既ニ老癭陳腐ニ属スルニ至ルモ聖書ハ依然トシテ少壯發育ノ力ヲ保存ス是レ蓋シ聖書ハ人ニ示スニ組織セル

定説ヲ以テセズシテ却ツテ定説ヲ組織シ得ヘキ材料ヲ供スル圓滿ナル眞理ヲ以テスレバ也ト予ノ經歷スル所ヲ以テスレバ予ハ年々神學上ノ教授ヲ重モニ人々ノ皆知ラント要スル聖書中ノ大教理ニノミ限ルノ甚ダ切要ナルヲ感シテ止マザルナリ乃チ聖書ノ各部ニ貫通セル教理ニシテ若シ之ヲ聖書ヨリ取ラントセバ之ト共ニ聖書ヲモ取ラザル可ラザルヲ譬ヘバ鉢中ノ草木ヲ取ラントスルニ其根枝ノ鉢中ノ全土ニ周布セルガ故ニ遂ニ共ニ其全土ヲモ取ラザル可ラザルニ至ルト一般ナル明瞭正確ノモノ、ミニ限ラントチ感ズ予ハ實ニ其根枝ヲ新舊兩約書ノ全部ニ周布セル活ケル重大ノ教理ヲノミ教ヘ且ツ傳ヘントチ欲ス願フバ空想妄想流行ノ今日ニシテ人々皆幻像怪影ヲ追逐シ

唯ダ新奇ナルヲ以テ眞正ナリト假定シ其進歩スルト退歩スルトニ拘ラズ徒ニ變動更易スルヲノミ之レ喜樂スルノ際ニ在ツテハ吾人實ニ空想妄想ヲ忌ムモノ、却ツテ時勢ニ後レタル人ナリト見ラル、チ知ル吾人實ニ斯クノ如キモノ、頗ル一種ノ人ニハ擯斥セラル、チ知ル然レモ予ハ時勢ニ後ル、ト見ラル、モ或ハ擯斥セラル、モ甘シテ他人ノ之ヲ爲スニ任シ唯ダ靜カニ後世公論ノ果シテ神ト共ナル所ノモノハ常ニ勝ツト云フニ至ルヲ待ンノミ否チ神言ノ大主義ニ循據スル所ノモノハ常ニ必ズ勝ツナルベシ「キリスト」モ曾テ吾儕ハ吾儕ガ知ル事ヲ語り吾儕が見シトチ証ス云々ト言ヒ給ヘリ吾人ハ「キリスト」チ師トセンノミ且ツ「キリスト」或ハ「ボウロ」ガ默シテ言ハザリシモノニ至ツ

テハ吾人モ亦默シテ言ハザルノ頗ル當然ナルヲ見ル之ヲ要スルニ吾人ガ講學教授ノ際組織神學ニ於テ最モ注意ス可キハ上帝ノ品性基督教ノ眞理。神言ノ眞理。罪惡ノ事由。基督ノ神性ト人性。基督贖罪ノ意。各人ガ基督ト一タルノ理。改心更生ノ狀。心靈的ノ發達。心靈的ノ作用。教會一致ノ作用。及ヒ審判ノ終結。等ノ大主義ニ在リ

基督教會ノ歴史ハ神學教授上ノ最モ切要ナルモノ、一部ナリ吾人ハ此ニ於テ創世記ノ「バラダイス」ヨリ默示録ノ「バラダイス」ニ至ルマデ教會歴史ノ全行經ヲ熟察スベシ乃チ預備ノ時代進歩ノ時代成功ノ時代殊ニ預言ノ幔幕ノ少ク開ヒテ吾人ヲシテ之ガ内實ノ幾分ヲ伺フヲ得セシメタル榮光ノ時代ヲ熟察スベシ又千八百年間ニ於ケル教會進歩

ノ歴史ヲ學ブニ方ツテ其諸大教訓ヲ鑑ミ誤謬說ノ生命ナキ所以。空理空想ノ人心ヲ殺ス方アル所以。「キリスト」ガ純潔ナル福音ノ活ケル生命ヲ頌與スル方アル所以。及ビ此第十九世紀ニ於ケル教會進歩ノ非常長大ナル所以ヲ講究教授スベキナリ

最後ニ講ズ可キハ實用神學ナリ予ハ思フ予ガ教ユル諸科ノ中ニ於テ其切要ナルヲ說教學教會學ノ如キ實用上ノ學問ニ及クモノハアラザルベシト予ハ神學生ノ一層深ク其重要ナル所以ヲ實驗センヲ望ム此科タル實ニ學生ニ教ユルニ其凡テ學ビ得ザル所ノモノヲ實行スルノ方法ヲ以テスルモノナリ吾人ハカノ「パウロ」ニ倣ヒ十字架ニ釘セラレシ「キリスト」ヲ以テ傳道ノ大主意トナシ人ヲシテ悔改シ

テ直ニ「キリスト」ヲ信ゼシムルヲ以テ傳道ノ大目的トナス
 ベシ予ハ實ニ方今日本ノ狀態タル既ニ説教ニハ必ズ靈魂
 救濟ノ福音眞理ヲ含有セザル可ラザルノ時ニ達シタルヲ
 見ルナリ

然リ而テ吾人ハ講學教授ノ際ニ在ツテ吾人ガ人トナリコ
 ヲ第一ノ主眼ニシテ其遙ニ知識業爲ノ上ニ出デ、極メテ
 價値アルモノタルノ事實ヲ悟了シ此人トナリテ進ムンガ
 爲メニ宜シシ凡テノ眞理ノ靈ノ降臨ヲ求ムベシ依ツテ之
 ガ啓導祐助ヲ得茲ニ以テ神國ヲ此日本ニ來サントスル吾
 人ガ大業ニ從事スベキナリ

今一層詳細ニ之ヲ講究センガ爲メニ神學ヲ大別シテ第一
 解釋神學、第二。歴史神學、第三。組織神學、第四。實用神學ノ四科

トナス

第一解釋神學 之ヲ再別シテ六小科トナス

(一ツ) 聖書語學即チ聖書ノ依ツテ以テ記録セラレタル希
 伯來希臘兩國語ヲ講究スルモノ

(二ツ) 聖書考古學即チ新舊兩約書ノ記録セラレタル時代
 二於テ「ユダヤ」人及ビ之ト隣接セル他邦人ノ技藝學
 問風俗習慣歴史等ヲ講究スルモノ

(三ツ) 聖書總論即チ聖書諸卷ノ批評論ユハ諸卷ノ年代著
 者眞偽及ビ其權力ト其起源保存ノ跡其正純訛誤ノ
 辨ヲ講シ諸卷ノ論項ト其互相ノ關係及ビ其大要ト
 價値トヲ究ムルモノ

(四ツ) 聖書文字批評論即チ聖書原文ノ精細ナル語意ヲ講

究スルモノ

(五ツ) 聖書解義學即チ聖書ノ意義ヲ解釋スルノ學ナリ

(六ツ) 聖書註釋學即チ解義學ヲ實地應用スルモノ

第二歴史神學 之ヲ再別シテ八小科トナス

(一ツ) 聖書歴史即チ聖書中ニ記録セラレタルモノ

(二ツ) 聖書神學即チ人類救濟ノ企圖ト神ノ國ノ漸次地上

ニ成ル所以ノ次第ヲ新舊兩約書中ヨリ講究スルモノ

(三ツ) 基督教會史即チ「キリスト」ノ時ヨリ今日ニ至ルマデ

ノ教會ノ歴史

(四ツ) 教儀的考古學即チ初代教會ノ風習禮拜ノ遺蹟ヲ講

究スルモノ

(五ツ) 基督教教理ノ歴史

(六ツ) 師父史傳即チ初代師父等ノ傳記

(七ツ) 信教條規論即チ教會ガ信仰ノ如何ヲ講究スルモノ

(八ツ) 統計學

第三組織神學 ヲハ神學中ノ尤モ高尚ナル學科ト稱スル

ヲ得ベキナリ即チ信仰ト道德トニ關スル基督教教理

ヲ合理的ニ論明シ且ツ信仰道德兩者相關ノ狀情ヲ基

督教主義ヲ以テ說述スルモノニシテ第一。辨証論第二。

定理說、第三。道義學、ノ三小科ヲ含有ス

第四實用神學 乃チ教會ノ種々ナル狀態ト種々ナル作用

トヲ包括シテ論說スルモノナリ之ヲ再別シテ七小科

トナス

- (一ツ) 説教學即チ説教ノ準備ト之ヲ演述スルノ方法トチ論ズルモノ
 - (二ツ) 禮拜法即チ奉事崇拜ノ方法ヲ述ルモノ
 - (三ツ) 教導法即チ兒童若クハ未熟ノ悔改者教導ノ方法ヲ述ブルモノ
 - (四ツ) 牧會學
 - (五ツ) 内國傳道法
 - (六ツ) 外國傳道法
 - (七ツ) 教會政治學
- 吾人ハ以上列舉セシ所ノモノチ一層詳細ニ論議センガ爲メ左ノ數條ヲ觀察センコトヲ欲ス且ツ之ヲ詳論スルト共ニ講究ス可ク參照ス可キ幾多書籍ノ名目ヲ示スベシ

第一 解釋神學 聖書ハ神學諸科ノ基礎ニシテ又本源ナル

- ガ故ニ諸科ノ中此科ヲ以テ最モ重要ナルモノトナス
- (一) 聖書語學 周到ニ此科ヲ講究センニハ「ギリシヤ」ヘブル」ノ兩國語ト「ヘレオ」詩文ノ組織トチ知ラント必要ナリ而シテ一般言語ノ起原ト發達トノ蹤跡ヲ考ヘ及ビ舊約書中幾分ノ依ツテ以テ錄セラレタルカノ「カルデア」語ヲ知ルモ亦頗ル益アルコトタルベシ「マツクス、ミューラー」氏ガ言語學ノ講義ヲ見ユ
 - (二) 聖書考古學 此學ノ如キ實ニ吾人が開拓ス可キ一大曠野タルナリ猶太人民ガ事跡ヲ知ラント欲セバ「ソユセフス」「ミルマン」「兩氏ガ史記ヲ讀ミ猶太周圍ノ國民ガ事跡ニ至ツテハ之ヲ「ラウリントン」氏ノ五古

帝國史ト埃及巴比倫古代史トニ問ヒ又埃及並ニ東國ニ於テ發見セル碑文ノ反譯ナル古事記録ト「セ」シ「氏」ガ東方ノ古帝國史「スミス」氏ガ聖書字典「バルロ」^{セイクレッド・テキスト・オブ・ヘブライ・エン・ド・アン・チキヒチ・ス}「氏」ガ聖書地理考及ビ考古錄等ヲ參觀スベシ

(三) 聖書總論ト聖書諸卷論 此二科ニ關シテハ方今學者ノ議論百出シ殊ニ舊約書諸卷ニ至ツテハ非常驚ク可キノ說ヲナスモノサヘアルニ至レリ故ニ新舊約聖書六十六卷ノ各部ニ於テ皆左ノ數項ノ点ヲ檢セザル可ラズ(一ツ)此レ果シテ所謂其時代ニ於テ記録セラレタルモノカ(二ツ)之ヲ記録セル所ノモノ果シテ誰レナリシカ(三ツ)其記録セラレタルノ地ハ何處ナリシカ(四ツ)此レ果シテ如何ナル讀者ノ爲メニ記録セラ

(四)

レタリシカ(五ツ)其目的ト趣旨トハ如何(六ツ)其成リシユリ以來再ビ之ヲ改輯シ或ハ之ヲ改書シタルニアリシカ(七ツ)聖書中ノ典籍トシテ承認セラレタルハ何時ニ在リシヤ等是ナリ「グリーソン」氏ガ「モイゼ」ト預言者論「バルロ」氏ガ聖書ノ友「スミス」氏ガ創世記ノ「ワ」ル「デヤ」傳記「バートレット」氏五卷記事ノ本源「チスケ」ンド「ルフ」氏ガ福音ノ起源等ヲ參考スベシ

聖書字句批評論 舊來用ヒ來リシ英譯ノ聖書ト近時校正セラレタル聖書トヲ比較シ「トレンチ」氏ガ校正新約全書說「リツクス」氏ガ校正新舊約全書說「シヤ」ツ「フ」氏ガ「ギリシヤ」語聖書英譯聖書ノ友「ワルフ」イ「ルト」氏ガ新約字句評論等ヲ對照參觀スベシ

(五) 聖書解義學 コノ科ヲ講ゼンニハ須ク左ノ諸点ヲ

觀察セザル可ラズ

其一、基督ハ聖書ノ中心ナルヲ、及ビ人類ガ基督ニ由ツテ救ハル、ハ聖書ノ主眼ナルヲ

其二、聖書ハ發育的ノ典籍ナルヲ、新約ノ事ハ既ニ舊約中ニ含蓄セラレテ存在シ舊約ノ意ハ遂ニ新約ニ至ツテ顯然發表セルモノニシテ聖書ノ真理ハ人間理會力ノ進歩ト共ニ漸次ニ啓示セラレタルナリ譬へバ猶ホ舊約ハ花萼ノ如ク新約ハ綻花ノ如シ

其三、聖書中ニ存スル心靈上ノ真理ハ表写的ノ言語ヲ以テ啓示セラレタルヲ、ユレ實ニ已ム可ラザリシヲニテ前ニモ云ヘルガ如ク上帝ガ心靈上ノ真理ヲ人類

ニ啓示センニハ茲ニ三困難ノアリタルナリ一ツ上帝ハ未知的ノ事物ヲ示スニ既知的ノ語句ヲ以テセザル可ラザリシニ二ツ上帝ハ心靈的ノ事物ヲ示スニ物質的ノ語句ヲ以テセザル可ラザリシニ三ツ上帝ハ無限的ノ事物ヲ示スニ有限的ノ語句ヲ以テセザル可ラザリシ、故ニ聖書中心靈上ノ真理ヲ表像セル言語ニ至ツテハ唯ダ單ニ文字上ノ意義ノミニ由ツテ之ヲ解釋スルヲ得ズ思フニ聖書中ニ用ヒラレタルモノハ每語每句各々皆之ニ應ズル真理ノ存スルアリテ其真理ハ毎ニ之レガ表像タル語句ノ意義ヨリモ大ナルモノナリ

其四、聖書中ニ存スル言語ヲ解釋センニハ言語當然ノ意

義ヲ攻索スルヨリモ寧ロ當時其言語ノ普通ナル用法ト一般ナル意義トニ注意セザル可ラザルコト

其五、聖書ヲ解スルニハ須ク譬言喩言比言若クハ預言ノ之ト共ナルニアラザル限リハ其語句固有ノ平易ナル歴史的ノ意義ヲ以テセザル可ラザルコト

其六、一章一句ヲ解スルモ須ク聖書全部ノ趣意ト一致セル意義ヲ以テセザル可ラズ、殊ニ其属スル所ノ書卷ノ趣旨意匠ト一致セルノ意義ニヨラザル可ラズ、且ツ其記者ガ之ヲ録スル所以ノ主義ヲモ觀察セザル可ラザルナリ

其七、相ヒ類似セル語句ヲ解スルニハ互ニ之ヲ對照參看セザル可ラザルコト

其八、不明瞭ニシテ解シ難キ語句ハ明瞭平易ナル語句ニヨツテ之ヲ解釋ス可キコト

其九、比言擬言ノ類ハ勉メテ之ヲ區別シ分明ニ之レガ解釋ヲ附セザル可ラザルコト、一ツ似言二ツ比言三ツ虚談四ツ諷語五ツ迷語六ツ譬言七ツ喩言八ツ諺言等ノ類是レナリ

其十、聖書中ニ存スル表像的ノ事物ト之ヲ解釋スル方法トチ勉メテ周到ニ觀察セザル可ラザルコト

甲表像的ノ人物即チ「キリスト」ノ表像タル「アダム」ノ如キヲ云フ

乙表像的ノ儀式即チ逾越ノ節ノ如キヲ云フ

丙表像的ノ職掌即チ祭司ノ長ノ如キヲ云フ

丁表像的ノ事件即チ「イスタエル」民族ノ埃及チ出ル

「モーセ」が曠野ニ眞鍮ノ蛇ヲ掀クル「イスラエル」民族ガ巴比倫ノ俘囚ヨリ解放セラル、⁷、ノ如キヲ云フ

戊|| 表像的ノ舉動即チ以賽亞二十章二一四耶利米十章一十一ニ載スルモノ、如キヲ云フ

此等表像的ノ事物ヲ解スルニハ凡テ其應ズル所ノ点ト又其異ル所其對スル所ノ点トヲ考へ殊ニ舊約中ニ存スル表像的ノ事物ハ皆全ク新約ニ於テ解シ得ラル、⁷ヲ察セザル可ヲザルナリ

其十一、表号的事物ノ⁷、幻影ニ由ツテ見ラレタル表号的事物ヲ例セバ耶利米一章十一、十二、十三、以西結三十七章一十四、四十七章一十二、撒加利亞四章但以

理二章卅一卅五、等ニ載スル所ノ類ナリトス此等及ビ他幾多ノ例証ヨリシテ左ノ如ク斷定スル⁷ヲ得ベシ

甲|| 表号的事物ノ名稱ハ其文字ノ如クニ解釋ス可シ願フニ預言者ハ概シテ其録セル所ノ事物ヲ實見シタルナリ

乙|| 表号の事物ハ常ニ之レト異レル他ノ事物ヲ表彰スルモノナリ

丙|| 表号の事物ト其表彰スル所ノ事物トノ間ニハ多少相ヒ近似スル所アル也其他吾人ハ表号の名稱、數、色、等ノ解釋ヲ求メザル可ヲザルナリ

其十二、聖書中ニ載スルカノ夢ヲ解釋スルノ方法ト悦^{スナイ}狂

「モーセ」が曠野ニ眞鍮ノ蛇ヲ掀クル「イスラエル」民族ガ巴比倫ノ俘囚ヨリ解放セラレ、¹、ノ如キヲ云フ

戊||表像的ノ舉動即チ以塞亞二十章二一四耶利米十章一十一ニ載スルモノ、如キヲ云フ

此等表像的ノ事物ヲ解スルニハ凡テ其應ズル所ノ点ト又其異ル所其對スル所ノ点トヲ考へ殊ニ舊約中ニ存スル表像的ノ事物ハ皆全ク新約ニ於テ解シ得ラル、¹ヲ察セザル可ラザルナリ

其十一、表号的事物ノ¹、幻影ニ由ツテ見ラレタル表号的事物ヲ例セバ耶利米一章十一、十二、十三、以西結三十七章一十四、四十七章一十二、撒加利亞四章但以

理二章卅一卅五、等ニ載スル所ノ類ナリトス此等及ビ他幾多ノ例証ヨリシテ左ノ如ク斷定スル¹ヲ得ベシ

甲||表号的事物ノ名稱ハ其文字ノ如クニ解釋ス可シ願フニ預言者ハ概シテ其録セル所ノ事物ヲ實見シタルナリ

乙||表号の事物ハ常ニ之レト異レル他ノ事物ヲ表彰スルモノナリ

丙||表号の事物ト其表彰スル所ノ事物トノ間ニハ多少相ヒ近似スル所アル也其他吾人ハ表号の名稱、數、色、等ノ解釋ヲ求メザル可ラザルナリ

其十二、聖書中ニ載スルカノ夢ヲ解釋スルノ方法ト悦^{スライト}狂

アラエクスメン
セル状態

ノ性質トヲ觀察セザル可ヲザル

其十三、預言ノ一、聖書中預言ニ屬スル部分ノ甚ダ重要ニシテ殊ニ方今之ヲ攻撃スルモノ、頗ル多キガ故ニ之レガ解釋ヲ求ムルニ必須ナル主義ノ如何ヲ講究スルノ實ニ已ム可ヲザルトハナレリ蓋シ聖書預言ノ明瞭ニ且ツ確實ニ赴キシハ漸次ノ進歩ヲ經テ來リシモノニシテ恰カモ善ク上帝ガ眞理ヲ人類ニ啓示シ給フ所以ノ大意ト一致スルアルヲ見ル故ニ先ヅ預言ヲ解釋スルニ適當セル主義ヲ知ラント必要ナリ而シテ又基督及ビ神祐ヲ得タル新約記者等ガ舊約ノ預言ヲ引用シ或ハ之ヲ解釋シタル方法ヲ以テ吾人ガ預言ヲ解釋スルノ指南車ト爲ザル可ラズ

然レモ之ヲ引用シ應用セル所ニシテ頗ル解シ難ク人ヲシテ其用法ノ意ヲ伺フニ惑ハシムルモノアリ例セバ賽七章十四ヨリ取レル太一章廿二、廿三、何十
一章一ヨリ取レル太二章十五耶卅一章十五ヨリセ
ル太二章十六一十八賽二十九章十三ヨリセル太十
五章七一十九出十二章四十六ヨリセル約十九章卅六
母後七章十二一十六ヨリセル來一章五詩八篇四一
六ヨリセル來二章六一八詩四十篇六一八ヨリセル
來十章五一七及ビ哥前十章三一六等ノ類コレナリ
此ノ如キ困難ノ点アルガ爲メニ預言ヲ引用シ又之
ヲ解釋スルノ方法ニ關シテ數多ノ論說ヲ生出スル
ニ至レリ

一ツ便利説、ユレ例証ヲ以テ徒ニ適宜ナル語句ヲ引用セ
 ルモノナリトナス説ニシテ此説ニユレバ預言ナル
 モノハ元來之レナクシテ寧ロ唯ダ偶然暗合ノ之レ
 アルニ外ナラザルナリ

二ツ主位轉換説、例セバ一句ハ「ダビデ」ノ事ニ關シ他句ハ
 「キリスト」ノ事ニ關スルトスル説

三ツ兩義説、即チ一句若クハ一節ニシテ主賓高下兩様ノ
 意義ヲ有セリトスル説

四ツ重複説、乃チ一預言ニシテ數多ノ事件ノ之レニ應ズ
 ルモノアリトスル説

五ツ新約ト舊約全体トノ間ニハ有機的ナル連關契合ノ
 存スルアリトスル説、此説タル最モ善ク狀情ノ必要

ニ應答シ最モ善ク吾人ノ心意ヲ満足スル所ノモノ
 ニシテ之ヲ呼ンデ有機表像的ソ預言説トモ稱ス蓋
 シ舊約ト新約トノ間ニハ互ニ相ヒ平衡スル所ノモ
 ノアツテ即チ舊約ノ全部ハ新約ノ表像預言ニシテ
 基督教ノ舊約ノ中ニ存スル譬ヘバ猶ホ枝葉花實ノ
 其種子ノ中ニ存スルガ如ク舊約ハ譬ヘバ猶ホ花萼
 ノ如ク開闢ヨリ以來「キリスト」ニ至ルマデノ間幾十
 百世ヲ通シテカノ「キリスト」ナル全世界ヲシテ驚奇
 感歎置ク能ハザラシメタル善美無雙ノ一花ヲ包衣
 シタリシナリ新約ノ教會ハ恰モ舊約ノ教會ト同一
 ニシテ別ナル所ナク唯ダ其一層清淨ニ一層廣潤ニ
 一層完全ニ赴ケルアルモノナルノミ而シテ舊約ノ中

一ツ便利説、ユレ例証ヲ以テ徒ニ適宜ナル語句ヲ引用セ
ルモノナリトナス説ニシテ此説ニユレバ預言ナル
モノハ元來之レナクシテ寧ロ唯ダ偶然暗合ノ之レ
アルニ外ナラザルナリ

二ツ主位轉換説、例セバ一句ハ「ダビデ」ノ事ニ關シ他句ハ
「キリスト」ノ事ニ關スルトスル説

三ツ兩義説、即チ一句若クハ一節ニシテ主賓高下兩様ノ
意義ヲ有セリトスル説

四ツ重複説、乃チ一預言ニシテ數多ノ事件ノ之レニ應ズ
ルモノアリトスル説

五ツ新約ト舊約全体トノ間ニハ有機的ナル應關契合ノ
存スルアリトスル説、此説タル最モ善ク狀情ノ必要

ニ應答シ最モ善ク吾人ノ心意ヲ満足スル所ノモノ
ニシテ之ヲ呼ンデ有機表像的ソ預言説トモ稱ス蓋
シ舊約ト新約トノ間ニハ互ニ相ヒ平衡スル所ノモ
ノアツテ即チ舊約ノ全部ハ新約ノ表像預言ニシテ
基督教ノ舊約ノ中ニ存スル譬ヘバ猶ホ枝葉花實ノ
其種子ノ中ニ存スルガ如ク舊約ハ譬ヘバ猶ホ花萼
ノ如ク開闢ヨリ以來「キリスト」ニ至ルマデノ間幾十
百世ヲ通シテカノ「キリスト」ナル全世界ヲシテ驚奇
感歎置ク能ハザラシメタル善美無雙ノ一花ヲ包衣
シタリシナリ新約ノ教會ハ恰モ舊約ノ教會ト同一
ニシテ別ナル所ナク唯ダ其一層清淨ニ一層廣潤ニ
一層完全ニ赴ケルアルモノタルノミ而シテ舊約ノ中

ニ存スル所ノモノハ多クハ皆基督ノ表像ト基督ガ
 使命ノ大業タル贖罪ノ表像タルヲ見ルカノ「イサク」
 ノ如キ基督ガ降誕ノ約束ト其奇異ナル降誕ト及ビ
 其終ニ全人類ノ犠牲タリシ「ト」ノ表像ナリト云フベ
 シ申十八章十八ト結三十四章二十三トヲ見ユ「モ
 セ」ト「ダビデ」ノ如キモ亦「キリスト」ノ表像タリシヲ知
 ラン蓋シ「エノク」「エリヤ」ノ昇天ニ至ツテハ正ク基督
 ガ昇天ノ表像タリシナリ創五章廿四、王下二章十一
 ナ見ユ
 新舊兩約書中ニ存スル大ナル預言ノ多クハ皆教會
 進歩ノ全面ヲ一貫シテ概稱セル所ノモノニシテカ
 ノ預言者ハ恰モ高山ノ絶頂ニ立ツテ千里ヲ尺寸ニ

見ルガ如ク幾百千年ヲ隔ツル所ノ事件ト雖ヒ皆之
 ナ連続セル事件ノ如クニ言ヒ做シタル也而シテ預言
 ノ中ニハ賽十章十一章亞八章九章ニ載スルモノ、
 如ク微カニ福音最後ノ勝利ヲ示スニ止ルモノアリ
 又カノ「ユダヤ」人ノ巴比倫ニリ本國ニ復歸スル「ト」ノ
 預言ニシテ又總ユル國民ノ「キリスト」ノ王國ニ復歸
 シテ之ニ忠順ナル「ト」ノ預言ナルガ如ク同一ノ言ニ
 シテ巧ク前後兩様ノ事件ヲ一貫スルモノアリ賽六
 十章耶二十三章一―八ヲ見ユ太廿四章ニ載スル基
 督ガ預言ノ如キモ亦全世界ノ滅亡ト之レガ表像タ
 ル「エルサレム」ノ滅亡トヲ一貫シテ告語セルモノナ
 リ

直接ナル預言ニ至ツテハ後來起ル可キノ事ヲ述ブルニ當時ノ形狀ヨリ借り來テ恰モ後來ノ「ト」ヲシテ當時ノ「ト」ノ一層盛大ニ一層光耀アルニ至レルモノタルガ如クナラシメタルナリ其一二例ヲ舉グレバ結卅四章卅三ノ如キ文意ハ明カニ「ダビデ」其人ノ再ビ來ル「ト」ト世ノ再ビ「ダビデ」ノ世ノ如クナル「ト」ヲ述ブルナレトモ實ハ基督ノ降誕ナル、「ト」ヲ示シ亞六章十二、十三、ニハ人世ノ基督ニヨツテ再ビ改造セラレ、「ト」ヲ以テ神殿ノ再ビ改築セラル、「ト」ニ連結シ馬四章五ニハ「バプテスマ」ノ「ヨハネ」ガ來ル「ト」ヲ以テ「エリヤ」ノ再來トシテ表出シタル（「キリスト」此見解ヲ正シトセリ太十一章十四、十七章十一、十二）等は「ト」

リ基督ガ王國ノ尊榮ト廣大トヲ表スルニ「エルサレム」ノ一層其廣ヲ増シ「シオン」ノ一層其高ヲ加ヘタル狀景ヲ以テシタルモ亦此意ナリトス亞二章馬四章ヲ見ユ「ヨハネ」ノ黙示錄ニハ救ハレタルモノ、天ニ於ケル住所ヲ表スルニ一層壯麗ニ一層華麗ニ建築裝飾セラレタル「エルサレム」ヲ以テシタリ舊約ニ於テハ願ル悠遠ナル後來ノ事ニ關スル時ト雖モ上帝ノ人民ヲ表スルニハ常ニ「イスラエル」ヲ以テシ其國土ヲ表スルニハ「カナン」ヲ以テシ而シテ「エルサレム」ト「シオン」トハ常ニ上帝ノ住ミ給フ所ヲ表シタリ又此上帝ノ撰民ニ敵スルモノヲ表スルコト「エジプト」「エドム」「アシリヤ」「モアブ」「アムモン」等ノ名稱ヲ以テシタ

ルナリ(此等國民ノ既ニ亡滅セシ後ニモ猶ホ敵人ヲ
 「表スルニ其名稱ヲ以テシタル」トサヘアリキ)賽二章
 一―五、十一章六十六章、十九章十九―廿一、亞十四章
 馬一章十一及ヒ賽十一章十四耳三章十三―廿一、米
 五章一―七ヲ見ヨ且ツ此等ノ章中ニ福音時代ニ於
 テ異邦人ノ改悔歸依スルヲ預言スルニ或ハ「シオ
 ン」ノ山ニ集ルト云ヒ祭壇ヲ建ツルト云ヒ熏香ヲ獻
 ズルト云ヒ猶太祝節ヲ守ルト云ヒ新月節安息日ニ
 「エルサレム」ニ來ルト云テ以テ之ヲ表セルヲ見ル故
 ニ吾人ハ此等ノ預言ヲ解スルニ必ズシモ字句固有
 ノ意ヲ以テスルヲ得ズ猶太人ノ本國ニ復歸スルト
 云ヲ以テ實ニ其「バレスチン」ノ地ニ復歸スルトナシ

「キリスト」ノ來ツテ「ダビデ」ノ王位ニ登ルト云フヲ以
 テ眞ニ「エルサレム」ニ於テ「イスラエル」ノ王位ニ登ル
 トナスガ如キアル可ラズ賽九章六、七、結卅四章卅三
 廿四、何三章五ニハ「キリスト」ヲ表スルニ「ダビデ」其人
 ヲ以テシ若クハ「ダビデ」ノ王位ニ登ラントスル尊榮
 ナル一ケノ君主トシテ之ヲ表シタリ然ルニ當時ノ
 猶太人ハ之ヲ其文字ノ如クニ解シタルガ故ニ遂ニ
 基督ヲ十字架上ニ釘シテ而シテ尙ホ預言ノ果シテ應
 シタルヲ見ルヲナカリシナリ
 時ノ前後ヲ一貫シテ其段落區別ヲ立テズ又後來起
 ル所ノモノヲ表スルニ當時ノ事物ト狀景トヲ以テ
 之ヲ爲スト云フノ主義ハ聖書ノ全部ヲ通シテ皆ナ

然ルモノナリカノ創世記ニ於テ「アブラハム」「イサク」「ヤコブ」ノ三家長ニ賜ヒシ上帝ノ約束ハ乃チ其後世子孫ノ大ニ昌盛ナラント、其後世子孫ノ遂ニ「カナン」ノ地ヲ有セント、其後世子孫ニ由ツテ総ユル國民ノ皆チ福祉ヲ享受スルニ至ラント、ナリシ而シテ此等預言ノ酬ユルニ至リシハ數百年ノ後ニ在リ且ツ吾人ハ今マ尙ホ其中途ニ在リト雖モ未ダ曾テ一報ノカノ預言セラレタルモノ、一時ニ成ルモノニハアラズ又相ヒ接續シテ起ルモノニモアラザルノ意ヲ告ゲタル事ナシ見ユ賽十章十一章ニハ「セチケリブ」ノ覆没ト「キリスト」ガ王國ノ來ルトチ共ニ預言シテ恰モ接續セル事ノ如クニ云ヒ賽四十五章ニハ猶太人

ガ「サイラス」ニユツテ救ハル、トト全世界ノ「キリスト」ニユツテ救ル、トト混同シ哈二章十四ニハ「カルデヤ」滅亡ノ「チ預言スルニ方ツテ忽チ全世界ノ終ニ主ヲ知ラザルナキニ至ル恰モ水ノ海面ヲ掩フガ如キニ達セントチ挾入シ耶卅三章ニハ「キリスト」ノ來ル「チ猶太人」ノ巴比倫ヨリ復歸スル「チニ連結シ亞九章九ニハ「キリスト」ノ來ル「チ以テ歴山大王」ノ爲ニ「エルサレム」ノ其危難ヲ免レタル「チニ連結ス但以理ガ七十週ノ預言アリシ以前ニハ猶太人ハ皆「メシヤ」ガ來ルハ猶太人ノ巴比倫ヨリ復歸スル後直ニ之アルベシト期望シタリ舊約ノ預言者ガ「キリスト」降誕ノ時日ヲ啓示セザリシト同ク新約ノ預言モ

亦「キリスト」再來ノ時日ヲ啓示セズ預言ニ於テ日時
 ナ分明ニセザル所以ノ主義ヲ察スレバ大ニ「キリス
 ト」ガ再來ノ問題ヲ解スルニ助ケアランカ舊約ノ教
 會ヲシテ初代ノ基督信者ノ如ク絶エズ主ノ來ル
 ナ期望シテ止マザラシメタルハ一ニ神圖ノ深キニ
 歸スルナリ又時トシテハ賽四章二、七章十四、ノ如ク
 大ナル事件ノ突然小ナル事件ノ記録中ニ現出スル
 「アリア」六章ノ如キモ神殿ノ再築ト「キリスト」ノ出
 現トナ混同シタリキ又時トシテ長日月ヲ亘ツテ漸
 次ニ起ル可キ數多ノ事件ヲ預言スルニ之ヲ一括シ
 テ單一ナルモノ、如クニセル「アリア」乃チ賽十三章
 十七、廿二ニ「メデヤ」人ノ巴比倫ヲ取ル「ト」其終ニ

全滅ニ至ル「ト」チ恰モ單一ナル事ノ如クニ述ブレ
 「メデヤ」人ノ巴比倫ヲ取リシユリ歴山大王ノ時ニ
 及ンデ其全滅ニ至リシマデニハ固ヨリ既ニ數百年
 ナ經タリシナリ同章六一十一ニハ全世界ノ終日ノ
 審判ヲ以テ巴比倫ノ審判ト混同セリ太廿四章ニ於
 テ「キリスト」モ亦「エルサレム」ノ滅亡ヲ以テ全世界ノ
 滅亡ト混同シ亞九章九、十二於テハ「キリスト」ガ驢馬
 ニ乗ヲテ「エルサレム」ニ入ル「ト」キリスト「ガ」統治ノ
 海ノ端ヨリ海ノ端ニマデ達スル「ト」チ接續シテ述
 ベ耳二章廿八、卅二ニ於テハ「ペンテユステ」ノ日ニ
 聖靈ノ下ル「ト」チ世ノ終末ニ日月ノ溶解スル「ト」ニ連
 續シタリ

斯クノ如クニシテ預言ハ數バ其終局成就チノミ啓示シテ之ニ達スルガ爲メニ經歷ス可キ中間ノ事件ヲ廢スルヲアリ譬ヘバ「キリスト」ノ來ルヲ述ブルト共ニ直ニ世界一般ノ平和ト清淨トニ赴ク「キリスト」ガ統治ノ尊榮ナルヲ及ビ總ユル國民ノ其治下ニ屬スルヲ告グルノ類ナリ賽十一章ニハ「エツサハ」ノ族ユリ杖ノ出ル「キリスト」ノ來ルヲ告グルニ次イデ狼ハ小羊ト住シ豹ハ小山羊ト伏センノ句アリ但第二章四十四ニハ「キリスト」ガ王國ノ建立ヲ記スルニ次イデ之ニ反セル國々ノ碎粉センヲ載セタリ又基督教會ヲ直接ニ預言スルモノニ至ツテハ概シテ其完全シタル風景ニ於テ之ヲ述ブ賽第二章

二、三、十一章廿五章四十九章五十五章六十章耶三十三章卅一章卅一「卅四詩篇第二第七十二等ヲ見ユ預言ニ有機表像的ノ性質アルヲ知ラント欲セバ申四章廿五ニ載スル所ト申廿八章卅六一六十八及ビ太廿四章ニ録スル所トヲ對照參觀スベシ「キリスト」ガ再來ノ預言ハ一部分ノ之ニ應ズルモノ乃チ表像的ノ成就アルヲ恰モ基督ガ降誕ノ預言ノ許多表像的一部分ノ成就アリシト異ルヲナシ基督ハ數千百年ノ間再三再四人類ノ形狀ヲ取リテ人間ニ降り人類ニ其眞理ヲ啓示シタリシナリカノ「ペンテユステ」ノ事ノ如キハ耳第二章廿八ニ於ケル聖靈ノ總ユル人ニ注ガル、預言ノ一部分應シタルモノニシテ爾

來今ニ至ルマデ數バ一部分ノ成就ノ起ルアリシ然
 レ其完全ナル成就ノ日乃チ聖靈ノ總ユル人類ニ
 降り此世ノ國々ノ悉ク吾儕ガ主「イエス、キリスト」ノ
 國タルニ至ルノ秋ハ尙ホ遙ニ後來ノ事ニ属スルニ
 似タリ又預言者ニ關シテ預言ハ如何ナル性質ヲ有
 セシカト云ハ、吾人ハ概テ預言者ハ神ノ代言人ニ
 シテ全然神靈ノ力ニ從属セルモノナリシト答ヘン
 蓋シ上帝ノ其意ヲ預言者ニ啓示スルニハ或ハ夢ヲ
 以テシ或ハ幻影ヲ以テシ或ハ表号的幻影ト表号的
 舉動トヲ以テシ或ハ直接ナル啓示ニ出ル等種々ナ
 ル類別ノアリシトハ雖モ預言者ノ心ハ全ク其意識
 ヲ失ヒシニハアラズ唯ダ其想像ト高等ナル能力ノ

昇進シテ多少知覺ノ作用ヲ抑壓遮蔽シタルニ過キ
 ズ實ニ預言者ニ在ツテハ外界感覺ノ閉塞シテ内界
 感覺ノ開張シタリシモノトハ雖モ其想像スル事物
 ト其說述スル方法トハ皆預言者固有ノ性質ト狀情
 トニ從ヒシヲ見ルカノ何西阿ガ想像ノ無盡ニシテ
 一想一想ニ接シテ起リ替テ究已ナキガ如キ哈巴谷
 ガ常套ノ思想ヲ離レテ高遠多樣ナル想像ニ走ルガ
 如キ以テ証スベシ預言者ニシテ若シ祭司ノ族ニ属
 スルカ其見ル所ハ耶利米以西結ノ如ク種々ナル神
 殿ノ形狀、神殿、祭壇、契約ノ箱「ケルビム」ノ一多ク牧羊
 者亞麼士ガ言ノ概テ牧場ノ事ニ係リ其想像ノ常ニ
 羊群耕耘ノ外ニ出デズ葡萄ヲ害スル細黴若クハ羊

欄ヲ犯ス猛獅等ヲ以テ其意ヲ表出シ而シテ巨大驚ク
 可キカノ「アシリヤ」ノ事物ノ多ク但以理以西結ノ書
 ニ現ル、モ亦之ガ爲メナルノミ
 預言者ト古ノ所謂占巫ナル者トヲ比較シテ以下六
 項ノ状態ニ注意セザル可ラズ
 第一。兩者共ニ内界感覺ノ開通スルアルモノ、如ク
 多少恠狂ノ状ヲ呈ス
 第二。占巫ハ口ニ泡沫ヲ生シ毛髮起立スレヒ預言者
 ハ絶エテ然ルコトナシ
 第三。占巫ハ自己ノ心裏ユリ言ヘヒ預言者ハ上帝ノ
 精神ユリス
 第四。占巫ハ魔睡藥及ヒ刺激劑ヲ用ヒテ以テ之レニ

從事スレヒ預言者ハ音樂祈禱讚美及ヒ上帝トノ交
 通ヲ以テス
 第五。占巫ニ於テハ自己ノ智力全ク其運用ヲ止メ後
 ナニ及ンデ少クモ其見シ所ノモノ言ヒシ所ノモノ
 ナ記セザレヒ預言者ニ在テハ唯ダ其智力ノ第二附
 屬ノ地位ニ下ルノミニシテ後ト明ニ其見シ所言ヒ
 シ所ヲ記ス結十一章廿四、廿五ヲ見ユ
 第六。占巫ニ在テハ効果ヲ生ゼザレヒ預言者ニハ効
 果ヲ生ズ
 預言ヲ解釋スルニ鑑ム可キ條項
 一ツ兩極端ノ弊ヲ避ケザル可ラズ(甲)極メテ文字ノ
 如クニ解釋スルコト、斯カル解釋法ヲ採リタレバエソ

猶太人ハ基督ヲ十字架上ニ釘スルニ至リシナリ(乙)
 極メテ汎漫ニ解釋スルヲ斯カル解釋法ヲ用ヒバ預
 言ニハ到底一定ノ意義ナキニ至ラン
 二ツ既應ノ預言ヲ講究シ依ツテ相ヒ比較シテ未應
 ノ預言ヲ解釋スベシ蓋シ新約ハ舊約ノ註釋ノ如キ
 ナリ
 三ツ常ニ二ヶノ点ヲ眼界ニ存スベシ(甲)預言者ノ見
 シ所ノモノハ如何ナル意義ナリシカト云フ(乙)上
 帝ノ傳ヘント欲シ給ヒシ所ノモノハ如何ナル意義
 ナリシカト云フ(乙)ハ(甲)ヨリ廣キヲアリ又之ト異
 ルヲアリ
 四ツ預言全体ノ大意ニ對照セザル可ラズ預言ヲ持

シ來テ事件ニ該當ス可ラズ寧ロ如何ナル事件ノ之
 ニ應ズルヤ否ヤ且ツ預言全体ノ大意ト一致スルヤ
 否ヤヲ見ル可キナリ
 五ツ明瞭ナルモノニ由リシテ暗昧ナルモノヲ解シ
 既應ノモノヨリシテ未應ノモノヲ解スベシ
 六ツ表号的ノ預言ニ於テハ表号トシテ用ヒラレタ
 ル所ノモノハ其大ニ之レヲ示サントスル所ノモノ
 ニ似タルノ故ヲ以テナルヲ記憶セザル可ラズ譬
 へバ耳一章四ニ於テハ田野ヲ害スル蝗群ノ恰モ侵
 入スル敵軍ニ似タルヲ以テシ亞三章四ニ於テハ汚
 衣ノ猶ホ罪惡ニ似タルヲ以テシ結三章一ニハ書冊
 ヲ喰フノ書中ノ意ヲ悟了スルヲ似タルヲ以テ

シ創四十一章廿六、廿七ニハ肥滿セル牝牛ト充實セル禾穂トハ豊年ヲ表シ瘠衰セル牝牛ト欠耗セル禾穂トハ凶年ヲ表シタルガ如シ

七ツ表号トシテ用ヒラレタル事物ノ普通一般ナル意義ト用法トヲ參照セザル可ラズ結一章ノ「ケルヒム」及ヒ四十章ノ神殿、亞四章ノ燭臺ノ如キハ皆「モ一セ」ガ律法書中ニ於テ有スル意義ニ從フテ解釋ス可キナリ

八ツ表号トシテ用ヒラレタル者ノ時トシテハ聖書中ニ於テ分明ニ説明セラル、トアリ例セバ(甲)但二章結十七章ノ如ク當時ニ在ツテ既ニ説明セラル、モノ(乙)遙ニ後世ニ及ンテ説明セラル、モノ乃チ但

七章十三中人ノ子ナル句ヲ太廿六章六十四ニ於テ基督ノ自ラ説明シ給ヒシモノ但七章中第四獸ノ小角ナル句ヲ撒後二章二、三ニ於テ「ボウロ」ガ説明シタルモノ、如シ

九ツ相ヒ似ルノ最モ著キ所ヲ求索セザル可ラズ

十ツ舊約ノ表像ト儀式トハ皆表号的ノ事物ナリトシテ之ヲ見ルベシ蓋シ基督ハ來テ凡テ此等ノ事物ノ意ニ應答シ此等事物ノ意ヲ成就シタリシ也此等ノ事物ハ既ニ去テ復タ來ル可ラザル者ナリ太五章十七、十八路十六章十六、十七、廿四章四十四約四章廿一來十章一等ヲ見ユ

賽十一章十五ニ於テ紅海ヲ分ツ、結廿章卅四、卅

八ニ於テ「イスラエル」民族ヲ率ヒテ曠野ヲ越ユル
 賽四十八章廿一ニ於テ岩石ノ中ヨリ水ヲ出ス、
 四章五ニ於テ雲ノ柱ト火ノ柱ノ、
 賽十一章六―八
 並ニ六十五章廿五ニ於テ「バラダイス」ノ再ビ興ル
 等皆後來起ル可キ一層大ナル事物ノ表号トシテ歴
 史上ノ事件ヲ引用シタル例証ナリ
 賽十九章十九、廿
 一馬一章十一ヲ参照セユ又結四十二章十六―二十
 ヲ讀ムニ「エルサレム」神殿ノ立シ所タル「モリヤ」ノ山
 ハ魯テ茲ニ云フ所ノ十分ノ一ニダモ當ラザルヲ知
 ル歎廿一章十六ニ於テ「エルサレム」ノ長廣高各一
 千五百英里ナリトスルモ亦此類ナリ

其十四、新約中ニ存スル舊約抜摘ノ、基督及ビ新約記者

等ノ舊約ヲ抜摘スル或ハ希伯來語ノ原書ヨリシ或
 ハ希臘語ノ「セプトウシント」ヨリシ或ハ唯ダ其意義
 ノミヲ取リシヲアリ或ハ其抜摘セシ所ニシテ希伯
 來語ノ原書ニモ希臘語ノ「セプトウシント」ニモ異ル
 ヲアリ蓋シ基督及ビ新約記者等ハ致テ文字ニノミ
 拘泥セザリシナリ(哥後三〇六ヲ見ユ)顧フニ上帝ノ
 其眞理ヲ人類ニ啓示スル之ガ思想言語ノ能ク充分
 ニ上帝ノ眞理ヲ保含スル能ハザリシ上世ノ人々ニ
 ナサシヨリハ神靈ノ感格ヲ得テ啓發シタル新約時
 代ノ記者ニユツテ一層完全ナル啓示ヲナスヲアル
 モ決シテ怪ムニ足ラザルベシ故ニ予ハ新約中ニ存
 スル舊約抜摘ノ、一ニ關シテハ一モ困難ノ点ナシト

其十五、聖書中ニ存スル所謂ル不協不合矛盾反對ノ

- 甲 不協不合ノ因ツテ起ル所
- 一 此彼ノ章句ニ於ケル年月日ノ差違ヨリ起ルモノ
- 乃チ創一章卅一ト第六章六ノ如キ是レナリ
- 二 記者ノ差違ヨリ起ルモノ
- 三 記述ノ主義ト並ニ其目的ノ差違ヨリ起ルモノ

四 排列ノ主義ト方法トノ差違ヨリ起ルモノ

五 計算法ノ差違ヨリ起ルモノ乃チ年月日ヲ計ル

六 東國方言ノ特別ナル狀情ヨリ起ルモノ

七 一人ニシテ數名ヲ有スルイアルヨリ起ルモノ

八 同一ナル言語ニシテ殊別ナル意義ヲ以テ用エラ

レ時トシテハ反對ナル意義ヲ以テ用エラル、

ルヨリ起ルモノ

九 謄寫手ノ過失ヨリ起ルモノ

十 批評家ノ想像ヨリ起ルモノ

乙 不協不合ノ如ク見ユルモノアルヨリ來ル結果

一 之レアルガ爲メニ吾人ヲシテ聖書ヲ講究セント

スルノ心ヲ生ゼシム
 二之レアルヨリシテ聖書ト万有トノ比較ヲ証明ス
 ルトヲ得乃チ宇宙ニハ災禍不善アルト共ニ美ト和
 トノ存スルアレバナリ
 三之レアルニ由ツテ聖書諸卷ノ記者等ガ詭詐ノ心
 ナカリシヲ証ス
 四之レアルガ爲メニ其文字ヨリモ寧ロ重キヲ其精
 神ニ置カシムルニ至ル
 五之レアルハ恰モ正ニ吾人ガ徳性ヲ檢スル試金石
 ノ如シ蓋シ眞心知ラントチ欲スル所ノ者ハ凡テ其
 和合ノ点ニ於テ優カニ眞理ヲ發見シ得ベケレバナ
 リ基督ハカノ自ラ欺ケル「ユダヤ」人ニハ譬喩ヲ以テ

語ヲレシモ知ラントチ欲セシモノ、爲メニハ皆之
 チ説明セラレタリ

六之有リト雖モ多クハ皆意義ヲ變動スルニ至ラズ
 又意義ヲ變動スルガ如キモノアリト雖モ其數甚ダ
 僅少ナル耳ナラズ或ハ之ヲ聖書ヨリ棄却スルモ決
 シテ教理ヲ變動スルニハ至ラザル如キモノ也
 吾人ハ今聖書解義學ノ項ヲ終フルニ臨ンデ神言ヲ
 講究シ又之ヲ解釋スルニ於テ人々ノ以テ指南ト爲
 サル可ラザル幾多ノ大主義ヲ舉グント欲ス其大半
 ハ勿論前段述べ來リシ所ノモノ、要畧ナリトス
 (一ツ)最モ重要ナルノ点ハ上帝ト其眞理トニ充分ナル同
 感ヲ有スルノ心ナリ乃チ神言ノ眞理ナルトチ信シ

凡テノ眞理ノ靈ニ由ツテ滿チ凡テノ眞理ノ靈ニ由ツテ導カル、所ノ心ナリ約十四章十六、十七、十六章十三哥前二章十一十四ヲ見ユ「メラソクソソ」モ曾テ曰ク眞ニ聖書ヲ學ブ者ハ不虔ニ陷ラズ詭辨ヲ好マズ名ノ爲メニ貪ラズ學ノ爲メニ忱ラズ上帝ヲ畏レ眞理ヲ愛シ悔改更新シテ茲ニ衷心ノ慰藉ヲ求メ正心誠意上帝ニ呼願シ教會ノ傷害ヲ痛ミ誦讀ニ次グニ涕泣ヲ以テシ而シテ上帝ノ親ク教ヘ給ハン「ヲ」ヲ求ムルナリト要スル所ハ此ノ如キノ心ニ在リ

(二ツ)記者等ト同一ナル思想ト感情トヲ有スルニ至ラン「ヲ」ヲ勉メザル可ラズ

(三ツ)聖書記録ノ中ニ存スル殊ニ新約ノ多クニ於テ存ス

ル文体ト國語ノ簡單質朴ナル「ヲ」ニ注意セザル可カラズ

(四ツ)言語固有ノ意義ヲ討究スルヨリモ寧ロ當時通用ノ意義如何ニ注意セザル可ラズ

(五ツ)言語ハ大概テ當時通用ナル思想ト風習トノ如何ニ通應セルモノナル「ヲ」ヲ觀察セザル可ラズ

(六ツ)聖書大体ノ主意ヲ敬重セザル可ラズ

(七ツ)心懸上ノ眞理ヲ表スル譬喩的ノ言語中ニハ表号トシテ用エラレタルモノ、有スルヨリモ大ナル眞理ノ存スル「ヲ」ヲ察セザル可ラズ

(八ツ)暗昧糲稜ナル章句ハ判然明瞭ナル章句ノ意ニ照ラシテ之ヲ解釋スベシ「テ」ル「リ」氏ガ聖書ヒナリカルヘルメスチツクス解義學ヲ見

又預言ノトニ關シテハ「ブリツクス」氏ガ基督ニ係
スル預言ノ説ヲ見ユ

(六) 聖書註釋學乃チ解義學ノ實地應用法

此科ニ於テハ先ヅ始メニ前項述ベ來リシ解義學ノ
大主義チ心ニ留メ其講究セントスル書卷ノ作者ト
同感チ有シ記者ガ目的チ確認シ及バン限リ其時勢
ト其地位トチ熟知スベシ又之ト同時代並ニ前後代
ノ歴史ト書中ニ存スル風俗慣習其他諸般ノ事物ノ
註解書トチ讀ミ若シ原書ノ國語チ讀ミ得ナバ親ク
原書ニ就テ之チ檢シ最善ノ註解書チ閱ミシ而シテ上
帝ヨリノ祐助ト指教トチ求メ熟ラ其章句大体ノ意
義ト深遠ノ意義トチ反省シ信仰ト聖書大体ノ主意

トノ比較チ心ニ留メ嚴ニ牽強附會スルヲ慎ムベ
シ舊約書ニ關シテハ「エルリユット」氏ガ聖書註解
ヤミーン「氏」フオセツト「氏」プロイン「氏」カウレス「氏」
等ノ註解書ヲ見新約書ニ於テハ「エルリユット」氏「ア
ルオオールド」氏「アボット」氏「カウレス」氏等ノ註解書ヲ
見ルベシ

第二、歴史神學ヲ學ブニ方ツテハ先ヅ第一ニ此世ニ在ツテ

ハ神國ト教會トハ同一ナルモノタルヲ心ニ留メ創
世記ニ於テ始メテ記述セラレタルヨリ以來今日ニ至
ルマデノ間教會發達ノ次第チ追跡シ尙ホ進ンデ預言
ノ未ダ明カニ告白セザルカノ榮光アル満足ノ年代ヲ
望ムノ緊要ナルヲ見ルナリ而シテ此科チ再別スレバハ

小科トナル

(一ツ)聖書歴史 之ヲ學バンニハ「シエセフス」氏ガ古史「デ
 イーン、ヌマンレ」氏ガ猶太教會論「ギーキー」氏ガ聖書
 時代考並ニ基督傳「アントリユ」氏ガ主「イエス」傳「シ
 ヤフ」氏ガ基督教會史「フハライ」氏ガ保羅傳等ヲ見バ
 頗ル益アルベシ

(二ツ)聖書神學 吾人ハ聖書神學ニ於テ基督教教理ノ大
 ナルモノ乃チ神ノ性質、罪惡ノ事由、贖罪、更生、人ト神
 トノ和合、來世ノ賞罰等ノ漸々人類ニ啓示セラレシ
 所以ノ次第ヲ追跡スル「ト」ヲ勉ム此科ニ關シテ學ブ
 可キノ書ハ「フヘーヤボルン」氏ガ聖書表像論「オエラ
 」氏ガ舊約聖書神學「ベルナルド」氏ガ新約教理進歩

論「ハ」ドウイツク「氏」ガ基督及ビ諸聖賢論「フ」オンウ
 「ス」タルツエ「氏」ガ新約聖書神學等ナリトス

(三ツ)教會史 吾人ハ此科ニ於テハ始メニ云ヘルガ如ク
 總ユル年代ノ諸大教訓乃チ誤謬說ノ生命ナキ「ト」、空
 想空理ノ人心ヲ殺ス「ト」キリスト「ガ」福音ニシテ純潔
 ニ宣傳体行セラレナバ眞ニ活タル生命ヲ頒與スル
 カアル「ト」、第十九世紀ノ基督教傳道ノ結果ニ於テ其
 例証ヲ見得ル「ト」、等ヲ學ブモノナリ「フ」イツシヤ「氏」
 ガ基督教會史並ニ宗教改革史ヲ見ルベシ

(四ツ)聖書考古學 此科ニ於テハ古昔基督教會ノ如何ナ
 ル形狀ナリシヤ又如何ナル禮典儀式ノ存セシヤヲ
 辨明ス

(五) 基督教教理ノ歴史 此科ニ於テハ基督教々理ノ發達ヲ辨明シ殊ニ極端ナル誤謬説ノ發達ト過不及ナキ中庸説ノ漸々復歸スル所以トヲ觀察セシキヲ勉ム「シエツト」氏ガ基督教々理史ヲ見ユ而シテ「ギリシヤ」教「ローマ」教ノ誤謬ノ如キ殊ニ口傳説ヲ以テ聖書ト同等ナル力アルモノト爲ス「教會ノ所爲或ハ法王ノ所爲ニハ決シテ誤謬ナシト爲ス「聖人天使處女」マリヤ「若クハ諸ノ遺物ヲ崇拜スルノ教理、及ヒ煉獄ノ教理、等ニ至ツテハ勉メテ詳細ニ檢セン「トテ要ス

(六) 師父史傳 此科ニ於テハ教會有名ノ師父等ガ「殊ニ初代教會ノ師父等ガ「ト其教會ニ及ボセル感化

如何ヲ講究ス

(七) 信教條規論 此科ニ於テハ乃チ教會信仰ノ發達ヲ講究ス「シヤ「フ」氏ガ基督教國ノ信仰箇條ヲ見ユ

(八) 統計學 此科ニ於テ吾人ハ初代教會ノ發達ト後世新教々會ノ「ローマ」「ギリシヤ」兩教會ニ比シテ如何ナル發達ヲ爲シタルカヲ觀察シ而シテ殊ニ第十九世紀ニ於ケル教會ノ發達ト且ツ其傳道地ニ於ケル發達ノ有様ニ注意セン「トテ要ス「ドルチヤエスマ」氏ガ宗教進步ノ問題「キリストトリ」氏ガ外國傳道論「ピヤソン」氏ガ傳道時機説等ヲ見ルベシ

第三、組織神學ヲ講究セシニハ左ノ如クニ之ヲ分ツベシ

(一) 辨証論 コレ復々再別シテ自然神學基督教証據論

ト爲ス

第一項、自然神學ハ聖書中ニ存スル上帝ガ特殊ノ啓示ニヨラズシテ此現實ナル世界ニ於テ顯ハル、所ノ上帝ガ存在ノ意及ビ上帝ガ性質ノ如何ヲ論ズル者ナリ

甲 本元眞理ユハ總ユル知識ノ本元ナルガ故ニ詳細ニ左ノ諸項ヲ講究セザル可ラズ

其一、本元眞理ノ性質乃チ其自明ナル所以、其必然ナル所以、其普通ナル所以、其固着ナル所以、其同致ナル所以、ヲ觀察スルヲ要ス

其二、本元眞理ノ彙類、乃チ表現的直覺、道理的直覺、再現的直覺、及ビ再現的直覺ト道理的直覺トヨリ成レル

知識ヲ觀察セシヲ要ス

其三、直覺ニヨツテ知覺サル可キ實體ヲ觀察セシヲ要ス

其四、非直覺論ヲ觀察セシヲ要ス乃チ

第一、感覺、記憶、及ビ推論ニハ時トシテ誤謬アリトスル異論

第二、吾人ハ絶對者ヲ知ルヲ能ハズトスル「ヘルベルト、スペンサー」氏ノ異論

第三、吾人ハ單ニ外界ノミヲ知り得ルニ止ルトスル感覺論者ノ異論

第四、人類ニハ靈魂ナルモノナシトスル異論
此等ノ論ト對シテ人類ニハ道理的心靈的靈魂ノ存

スル証據ヲ觀察スルヲ要ス

第一、靈魂ノ本体ト作用トハ全ク物質ノ本体ト作用トニ異ル事實ヨリ來ル証據

第二、靈魂ハ肉体ト共ニ滅スルノ証跡ナキノミナラズ寧ロ其反對ナルガ如キ許多ノ現象アルノ事實ヨリ來ル証據

第三、死後生存ノ信憑ト期望トハ人類一般普通ナル事實ヨリ來ル証據

第四、靈魂ノ能力ハ高尚超上ナル事實ヨリ來ル証據

第五、進化説ヨリ來ル証據

第六、心上ノ作用中ニハ物質的部分ニヨリ來ラザルノミナラズ寧ロ之ニ正反スル所ノ者アル事實ヨリ來ル証據

第七、此世ニ於テ善惡應報ノ平等ナラザルノ事實ヨリ來ル証據

且ツ此等ノ証據ト共ニ禽獸ニハ靈魂アルヤ否ヤノ問題ヲモ觀察スベシ

乙 神ニ關スル種々ナル論說ヲ觀察セザル可ラズ

其一、諸ノ無神論乃チ全然タル無神論不可思議論及ヒ懷疑論

其二、諸ノ凡神論

其三、迷信

其四、有神論乃チ非天啓有神論及純全タル有神論此等諸種ノ説ト其影響トノ要畧ヲ知ラント欲セバ

教頭「マツコツシ」氏ガ神政論ヲ見ルベシ。

丙 天地万物ノ大原因タル有心者存在ノ論証ヲ觀察セザル可ラズ乃チ

其一、無神論ニ伴フ大困難ヨリ來ル論証

其二、有心大原因説ノ能ク總ユル困難ヲ解釋スルノ事實ヨリ來ル論証

其三、天地万物ニハ原因ナカル可ラザル道理ヨリ來ル論証

其四、天地万物ノ間ニ顯然タル意匠ノ跡アル事實ヨリ來ル論証

其五、天地万物ノ間ニ顯然タル秩序企圖排列ノ跡アル事實ヨリ來ル論証

其六、人類普通ノ一致同意ヨリ來ル論証

其七、人類ガ獨自各箇ノ直接ナル意識ヨリ來ル論証

丁 上帝ノ品格ト性質トヲ觀察セザル可ラズ
其一、上帝ハ絶對的實在者ニシテ万物ノ本源タル
乃チ上帝ノ常住性

第一、無始無終ナル
第二、不變不易ナル

第三、獨一ナル
第四、理想ノ極ナル

其二、上帝ハ無限的創造者ニシテ万物ノ原因タル
乃チ上帝ノ創造性

第一、鹽ナル

第二、遍在ナルヲ

第三、全能ナルヲ

第四、全智ナルヲ

其三、上帝ハ圓滿的自由者ニシテ万物ノ終極ナルヲ

乃チ上帝ノ道德性

第一、聰明ナルヲ

第二、純善ナルヲ

第三、清淨ナルヲ

第四、福祉ナルヲ

此等ノ諸点ト共ニ宇宙間ニ災禍不幸不善罪惡ノ存スルヨリ起ル異論ヲモ觀察センヲ要ス

此部ニ於テ吾人ガ學ブ可キハ「スペンサー」氏ガ第一、

原理論及ヒ道義學「ヴソウン」氏ガ「スペンサー」氏哲學評論「フリント」氏ガ有神論「ハリス」氏ガ有神說「本元論」「シャチー」氏ガ終局原因論「シヤツドボルン」氏及ヒ「ヴソレンチン」氏ガ自然神學「ライト」氏ガ基督教証據論ノ論理「クツク」氏ガ宗教ト化學ノ關係「ドウソン」氏ガ聖書万有ノ關係「ミヴワルト」氏ガ万有ノ教訓說「ビー」氏ガ「プロトプラズム」乃チ物質生命ノ關係「ロツトセー」氏ガ「小天地論」マイクログコスモス「ドウソン」氏ガ世界起源說等ノ諸書ナリトス

第二項、基督教証據論ユレ復タ別ツテ二トナスベシ一ハ基督教ハ神ヨリ出ルノ教ナルカノ問題ヲ論シ二ハ聖書ハ神ヨリ出ルノ書ナルヤヲ論ズ

吾人ハ基督教ノ要求スル所ヲ講究スルニハ預メ上帝ハ罪惡ト其報果トヨリ免ル可キ所以ノ方法ヲ人類ニ啓示セント欲スルノ意アルヲ推測セザル可ラズ又世界ノ諸大宗教ト其經典其歴史其結果等ヲ檢セザル可ラズ乃チ「ペルシヤ」人ノ「ゼントアヴェス」マ「アシリヤ」古代ノ「石碑文」印度ノ「ヴェイダス」佛者ノ三部經老者ノ「道德經」孔子ノ「經書」エソプト「ノ死」經「マホメト」教ノ「コーラン」古「スカンデイナビヤ」ノ「エダス」等ヲ取りテ之ヲ檢シ且基督教ノ聖書ト比較スベシ又諸ノ宗教ヲ取ツテ之ヲ基督教ト比較シ其互ニ近似スル所ノ点ヲ察シ而シテ基督教ノ全ク他ノ宗教ト異ル所ノ点譬ヘバ基督教ハ上帝ニユツテ起リシ者

ナルヲ、上帝ハ太初以來其必要ニ應ジ絶エズ吾人々類ニ其眞理ヲ啓示スルヲ、基督教ノ泉源ハ上帝ノ仁愛ニ在ルヲ、上帝ガ自ラ人類ノ罪ヲ贖ヒ其心ヲ洗滌再新シ而シテ更ニ之ト共ナラントスルノ業ヲ成就セラレタルヲノ如キ其目的ノ如キ人類ノ心ヲ洗滌再新スルヲノ如キヲ察スベシ果シテ諸ノ宗教中獨リ基督教ノミ人性ニ適合スル教タルヲ發見スルナリ基督教ハ能ク人類ガ智ト情ト道德心トニ適合シ而シテ又能ク人性ノ需要ヲ給シ如何ナル年代ノ人ニモ如何ナル種族ノ人ニモ如何ナル階級ノ人ニモ如何ナル境遇ノ人ニモ適合スル教タルナリ又異常ナル歴史ニユツテ顯ハレタル基督教ノ眞理ト及ビ基督

教ノ一個人ノ上若クハ一國民ノ上ニ及ボス感化ノ
 如何ヲ觀察シ「サントウイッチ」島、南洋中ノ群島、「マダ
 ガスカル」「フィジ」「サモア」「アフリカ」「インデヤ」支那、日本
 ニ於ケル其感化ノ如何ヲ見ルベシ此科ニ於テ吾人
 ノ學ブ可キハ「フィツシヤ」「氏ガ基督教創始論」「フハ
 ラ」「氏ガ基督教ノ初世論」「ストルス」「氏ガ基督教神出
 論」「トンフソソ」「氏ガモラビヤノ傳道錄」「アトウイッ
 ク」「氏ガ基督教ト人性トノ關係及ビ東京演說等ナリ
 トス
 新舊兩聖書諸卷ハ眞神ノ啓示タルノ証憑ヲ觀察セ
 シニハ其諸卷ノ果シテ所謂其時代ニ於テ所謂其記
 者ノ手ニ成レリトスルモ尙ホ之ニ加ヘテ吾人ハ詳

細ニ左ノ疑問ヲ講究セザル可ラズ

第一、聖書諸卷ノ果シテ信賴スルニ足ル價值アルヤ
 否ヤト云フ事、乃チ記者等ハ此等ノ記録ヲ作スノ資
 格アリシヤ否ヤ記者等ハ尋常ナル辨別力ヲ有セシ
 ヤ否ヤ記者等ハ誠實ナル人物ナリシヤ否ヤト云フ
 一
 第二、記者等ハ其記録ヲ作スノ時ニ當ツテ果シテ神
 祐ヲ得タリヤ否ヤト云フ一乃チ聖書ハ上帝ヨリノ
 啓示ヲ有セリヤ否ヤ記者等ノ上ニ降レル神祐ハ其
 心靈的ノ眞理ニノミ限レルカ若クハ歴史上其他諸
 般ノ点ニモ及ベルヤ否ヤト云フ一記者等ノ上ニ降
 レル靈感ノ性質ハ如何ナルモノナリシカト云フ一

此等ノ疑問ヲ觀察スルト同時ニ聖書中ニ存スル不
協不合ノ点ヲモ檢セシテ必要ナリ

此科ニ關シテハ「ロイリンソン」氏ガ歴史的ノ證據論
「フイッシャ」氏ガ袖珍基督教證據論「ライト」氏ガ聖
書神權論「ワルレン」氏ガ人類ノ大父論「マンニング」氏
ガ聖書ハ人作ノ書ニアラザルノ說等ヲ見ルベシ

(二)

定理論ニ於テハ吾人ヲシテ先ツ心中ニ確然上帝ノ
聖言ユツ即チ神學知識ノ大本源ナリト云フノ大主
義ヲ留メシテ要ス而シテ吾人ガ學ブ所ノモノ信ズ
ル所ノモノ致ユル所ノモノ皆上帝ノ聖言ニ根カン
トチ勉メ上帝ノ聖言中ニ貫通スル諸大教理ヲノミ
吾人ガ講究ノ主眼トナシ吾人ニシテ若シ想考スル

「アヲバ」之ヲシテ聖書大体ノ主意ト一致スル所ノ
線路ニ由ラシムベシ決シテ聖書ノ主意ト反シ若ク
ハ聖書中暗昧ニシテ且ツ僅少ナル部分トノニ合フ
モノタラシム可ラザルナリ

定理論ハ記者ガ目的ト論述ノ便宜ニ應シ種々ノ異
レル方法ニユツテ分ツチ得ベク又種々ノ異レル類
別ニ從ツテ分ツチ得ベシ吾人ハ今論述ノ便宜ニ從
ヒ以下ノ如クニ之ヲ分ツ第一、神政ノ部、第二、罪惡ノ
部、第三、救拯ノ部、第四、來世ノ部、第五、教會ノ部

一ツ神政ノ部此ノ部ニ於テ吾人ガ觀察ス可キ最モ重要
ノ点ハ上帝ガ其宇宙万有ニ於タル關係如何ニ在リ
トス乃チ上帝ハ万有ノ上ニ超絶スルカ若クハ万有

ノ中ニ常住スルカ、或ハ万有ノ上ニ超絶スルト共ニ亦其中ニ常住スルカ、上帝ガ物質世界ヲ統治スルノ方法ト道德世界ヲ統治スルノ方法トノ區別ハ如何上帝ハ一定ノ方法ノミニユツテ宇宙間ノ總ユル道德的造物ヲ支配スルカ、上帝ガ政治ハ最小最微ナル事物ニマデモ及ベルカ、道德的義務ノ本源ハ如何、良心ノ性質ト其權力トハ如何、意志ノ性質ト其作用トハ如何、意志ハ自由ナルカ、人類ハ平生最モ強盛ナル動機ニノミ從フテ決意スルカ、人類ノ自由ト上帝ノ政治トノ調和ハ如何、上帝ハ如何シテ墮落セル天使ヲ支配スルカ、上帝ハ一般ノ法則ノミニユラズノ物質ヲ處分スルコトアルカ、上帝ノ政治ハ人類ガ撰擇ト

執意トニマデ及ベルカ、上帝ニシテ人類ヲ處スルニ其處セラル可キユリモ一層善ナル方法ヲ以テセバ其義ニ於ケル如何、人類ハ上帝ノ欲望ニ反シテ云爲スルノ力ヲ有スルカ、上帝ハ永遠ノ企圖ニ從フテ宇宙万有ヲ支配スルカ、上帝ガ預知ト預定トノ區別ハ如何、積極的預定ト消極的預定トノ區別ハ如何、如何シテ吾人ハ吾人ガ祈禱ト上帝ガ預定トノ調和ヲ求ムベキヤ、總ユル惡者ノ行爲モ皆上帝ガ永遠ノ企圖ノ中ニ在ルモノカ、等ノ問題ヲ講究センコトヲ要ス

二ツ罪惡ノ部此部ニ於テハ罪惡ノ性質ハ如何、如何ナル行爲ノ罪惡ナルカ、罪惡ノ報果ハ如何、人類ニ罪惡ヲ爲ス可キ傾向アルハ何ニユツテ起リシヤ、人類ハ全

然罪惡ノ中ニ沈溺セルモノカ、罪惡ハ何ニユツテ此世ニ入りシヤ、上帝ハ罪惡ノ此世ニ入ルヲ止ムルノ力ヲ有セシカ、罪惡ハ何ンカ爲メニスル所アツテ存スルカ、上帝ハ罪惡ノ存スルガ爲メニ幾分カ其幸福ヲ減少スルカ、何ンガ故ニ罪惡ノ存スルヲ許スハ之アルヲ禁ズルヨリモユカリシカ、上帝ハ禍禍災害ヲ創メタルカ、嬰兒ガ靈魂ハ如何シテ造與セラレ、ヤ、等ノ問題ヲ講究センコトヲ要ス

三ツ救拯ノ部此部ニ於テハ基督ガ人性ノ証據ハ如何、聖書外ニ存スル基督ガ神性ノ証據ハ如何、聖書ヨリ來ル其神性ノ証據ハ如何、基督ハ數バ舊約時代ニ於テ出現シタリトハ如何、舊約ノ「エホヅワ」トハ誰レニシ

テ「エホバ」ノ使トハ誰ナルカ基督ガ神性ト人性トノ關係ハ如何、基督ハ今モ尙ホ天ニ在ツテ人性ヲ有スルカ、此世ニ在リシ間基督ガ謙遜ノ性質ハ如何ナルモノナリシヤ、基督ハ神父ヨリモ下レルモノナリト云ヒ基督ニシテ知ヲザル事物アリト云フガ如キ如何シテ之ヲ説明スルヲ得ベキヤ、神ハ一ナリトハ如何ナル意義ニユツテ然ルカ、神ハ三位ナリトハ如何ナル意義ニユツテ然ルカ、神体三位ノ區別ハ永遠ヨリ存在セルモノニシテ又永遠ニ存續スルモノカ、三位各々ノ聖職聖務ハ如何、聖書外ニモ上帝ガ人類罪惡ノ贖ヒヲ爲サントスル意アル証憑アリヤ、舊約ノ中ニ發見シ得ベキ基督贖罪ノ表像タルモノト表号

ムルモノトハ如何、聖書ハ基督ノ死ト人類ノ罪トノ
 間ニ如何ナル關係ノ存シタリト証言スルヤ、又基督
 ノ血ト人類ノ救トノ間ニ如何ナル關係ノ存セリト
 証言スルヤ、基督ガ辛苦ト釘死トハ總ユル人類ガ苦
 ト死トヲ贖ヘルモノカ、基督ハ果シテ舊約ニ在テ表
 像タリシモノト其犠牲トノ本眞ナリシカ、基督ガ艱
 苦ノ性質ハ如何、基督ガ贖罪ノ目的ハ如何、基督ガ贖
 罪ノ神ニ於ケル結果ハ如何、其罪犯タル人ニ於ケル
 結果ハ如何、其他ノ靈物ニ於ケル結果ハ如何、信者ト
 基督ガ各体ノ性質ハ如何、其結果ハ如何、基督ガ復活
 ト昇天トノ結果ハ如何、基督ガ苦ト罪人ノ罰トノ關
 係ハ如何、基督ハ信者ノ爲メニ死シタリシカ、基

督ノ神性ヲ否ム結果ハ如何、基督ハ何ソガ故ニ夙ニ
 上世ニ於テ出デザリシヤ、人ノ子ナル句ノ意義ハ如
 何、聖靈ノ一クノ自由者タル證據ハ如何、聖靈ノ神々
 ル證據ハ如何、更生ノ性質ハ如何、罪犯タル人類モ其
 更生スルニ方テハ聖靈ト共ニ與テ力アルヲ得ル
 カ、更生シタルモノ、愛ノ性質ハ如何、眞正ナラザル
 更生ノ結果ハ如何、基督信者ガ自ラ其心ヲ檢スルニ
 ハ如何ナル試金石アルヤ、採擇トハ如何ナル意義ナ
 ルカ採擇ヲ得タル者ハ其悔改スルトセザルトニ關
 セズシテ皆救ル、カ、採擇ヲ得ザル者ニシテ悔改シ
 テ救ハル、トアリ得ルヤ、採擇セラレザルモノニシ
 テ果シテ悔改シテ救ハル、トアルカ、或ルモノ、採擇

ハ餘ノモノ、悔改ト救拯トニ障碍トナルカ、救ハル
 ル者ハ救ヒニ撰バレタルモノナルカ、救ハレザルモ
 ノハ審キニ撰バレタルモノカ、何ンガ故ニ一層多數
 ノ人ノ救ニ撰バレザルカ、上帝ヨリ見ナバ撰バレタ
 ルモノ、永生ニ入ルノ理由ハ如何、信者ガ清淨ノ度
 量ト進歩トハ何ニ屬スルカ、基督信者ハ此世ニ於テ
 全ク罪ナキ清淨ノ人トナルカ、神ニ屬セルノ生涯ヲ
 進メシニハ如何ナル補助カ最モ首要ナルヤ、真正ナ
 ル基督信者ニシテ或ハ墮落シテ終ニ沈淪スルコトア
 ルカ、等ノ問題ヲ講究センコトヲ要ス

四^{||}來世ノ部吾人ハ茲ニ靈魂ハ死スルト同時直ニ意識
 アル存在ノ状態ヲ得ルカ、聖書中ニ用ヒラレタルシ

ヨール「ヘーダイーズ」「ゲヘンナ」「パラダイス」ノ語ハ
 如何ナル意義ヲ有スルカ、吾人ガ死スル時ノ品格ハ
 死ト審判ノ日トノ中間ニ於ケル靈魂ノ情狀ヲ決ス
 ルカ、末日大審判ノ用ハ如何、大審判ノ罰ハ無究ノモ
 ノナルカ、第二ノ死トハ如何ナル意義ヲ有スルカ、等
 ノ問題ヲ講シ又々万物ノ終ニ當初ノ状態ニ復歸ス
 ルト云フ説、死セシ後ニ及ンデモ尙ホ悔改シテ救ハ
 ル、ノ機會アリト云フ説、惡者ハ終ニ全滅ニ歸ス可
 シト云フ説等ヲ考ヘ又罰ノ性質ハ如何、死後ノ復活
 ハ何ニヨツテ成ルカ、靈体ト肉体トノ關係ハ如何、天
 國ハ何處ニ在ルカ、其住民ノ狀情ト業務トハ如何、吾
 人ハ如何シテ惡者ノ苦ヲ見ツ、幸福ナルヲ得ルカ、

天使ノ性質、地位、及ビ其境遇、ト業務トハ如何、惡靈存在ノ証據ハ如何、其起源、其地位、其名稱、及ビ其數、其性質、其業務ハ如何、等ノ問題ヲ察シ且ツ基督ノ再ビ此ノ世ニ來ルト云フノ說、及ビ上帝ノ正義ト罪惡存在トノ調和說、ヲモ講究セシトテ要ス

五||教會ノ部吾人ハ此ニ教會ノ目的ト其聖典タル洗禮晚餐禮トヲ講ス乃チカアル洗禮ニ必須ナルモノハ何ゾ、嬰兒ニ洗禮ヲ施スノ議、晚餐禮ノ性質ト價值トハ如何、安息日トハ何ゾ、其本源ト之ヲ守ルノ方法ハ如何、仁愛トハ何ゾ、教會ニ於テ之ヲ進ムルノ最良方法ハ如何、等ノ問題ニ在リトス

定理論ニ關シテハ「スミス」氏ガ神學序論及ビ其神學

「フオン、ウースタルツエー」氏ガ定理論、ウイットナル「氏ガ教理神學序論」シヤフ「氏ガ基督品格論」メツド「氏ガ唯一中惠者論」ライト「氏ガ死ト此世トノ關係等ヲ讀ムベシ

(三) 道義學ニ於テハ先ヅ上帝ヲ以テ道義學ノ基礎ナリト認メ義務ノ本源ヲ上帝ガ永遠ノ品格ニ基クモノナリト認メ而シテ道義學ノ大目的ハ總ニルモノ(上帝ヲモ含ム)ノ最高善ニ在ルノ意ヲ認メシトテ要ス此學ヲ講究スルニハ

第一、道義ト家族トノ關係乃チ道義ト婚姻、親子、主從、朋友、接人ノ務、交際ノ方、トノ關係ヨリシ

第二、道義ト國家トノ關係乃チ道義ト從順、公民、出版、戰

爭、トノ關係ヨリシ

第三、道義ト教育技術科學トノ關係ヨリシ

第四、道義ト教會トノ關係乃チ道義ト教訓、人性、救拯ト

ノ關係ヨリスベキナリ

「マルテンセン」氏ガ道義學、カツトラ「氏」ガ道義學創始論ヲ見ルベシ

第四、大科タル實用神學ニ至ツテハ吾人其神學諸科ノ中ニ於テ頗ル切要ノ科タルニ注意スベシ而シテ一ケ人ノ之ヲ爲スト一團體ノ之ヲ爲ストニ關セズ總テ教會ノ運動ハ皆十悉ク之ヲ包括シテ茲ニ論議ス

(一ツ)說教學ユハ說教ヲ組織スルノ準備ヨリシテ之ヲ演述スルノ方法ニ至ルマデ凡テ說教ニ關スル事項ヲ

論ズルモノナリ說教ヲ組織スルノ準備ニ關シテハ

第一、說教ノ解剖ヲ觀察セシメテ要ス而シテ其首要ナル

点ハ(甲)經句、乃チ經句ノ便益其誤用、其權力、其有ス可

キ要質、等(乙)序辭、乃チ序辭ノ意匠、其材料、其位地、等(丙)

説明、乃チ説明ノ意匠、其本源、其材料、其有ス可キ要質、

及其位地等(丁)論旨、乃チ論旨ノ性質、其貫徹ス可キ所

以、其簡約ナル可キ所以等(戊)區分、乃チ區分ノ意匠、其

便益、其基本、其規則、其長短、其排列、其告示、等(己)暢論、乃

チ其普通法則、其特別形狀、説明體、議論體、勸誘體、等(庚)

結尾、乃チ其義解、其切要、其位地、其形狀、等ナリトス

第二、說教ノ総合ヲ觀察セシメテ要ス而シテ其觀察ス可

キノ点ハ(甲)材料ノ本源、乃チ一ツ聖書、乃有、攝理及ヒ

人類ノ性質中ニ顯ハレタル上帝ノ啓示ヨリ得ベキモノニツ人爲ノ作タル文學技術ヨリ得ベキモノ三ツ密思若クハ明辨ニヨツテ自己ノ心中ヨリ得ベキモノ(ユハ材料中ノ首タル本源ナリトス)等(乙)説教ノ材料ヲ考案スルヲ、乃チ經句、論旨及ビ説教全体ノ如何ヲ工夫スルヲ等(丙)材料ヲ排列布置スルヲ(丁)集合組立スルヲ等ナリトス

第三、演述ノ様法ヲ觀察セシメテ要ス乃チ誦讀演述ノ様法、諸記演述ノ様法、即意演述ノ様法ナリトス
前段ノ要畧ハ概シテ「シカゴ」神學校ニ於テ教授「エフ、ダブリユ」フイスク氏ノ述ベタル説教學講義録ヨリ採摘セシモノナリ此科ノ講究ニ關シテハ「シエ

ツド」氏ガ説教學及ビ牧會學「プロ」マス「氏ガ説教學」
「ビー」チヤ「氏ガ」エール「講義録」ヲ見ユ

又々能辨ノ目的、乃チ人ヲ感動シテ之ヲシテ倦マザラシムルヲ、訴フ可キノ動機、乃チ爲ス可キノ義務有ス可キノ善徳享ク可キノ幸福、能辨ノ境域、乃チ人ノ艱苦ヲ慰撫シ人ノ便益ヲ進歩シ各種身體ノ災害ヲ救濟スルヲ教育ノ一節制ノ一戰爭ヲ防止スルヲ、等ヲ觀察スルヲ要ス而シテ能辨ノ範圍ノ最モ大ニ最モ廣ク最モ高キハ基督ガ福音宣傳者ノ領スル所ニ在リ乃チ其収メントスル目的タル罪惡ノ救拯ト永遠ノ生命トハ共ニ無限ニシテ又々其應ユル所ノ動機タル上帝ノ愛ト業トハ共ニ無究ナレバナリ

人ヲ感動セシムガ爲メニ用ニ可キノ方法ヲ講究スルニ方ツテ吾人ハ博士「ガスリー」氏ガ金言ニ注意スルノ頗ル益アルヲ見ル乃チ論証スル「潤飾スル」勸誘スル「三者」ヲ忘レサル是レナリ乃チ人ノ理性想像、心情ニ訴フル是レナリ吾人ハ先ヅ第一ニ眞理ヲ顯明セザル可ラズ而シテ或ハ之ヲ哲理上ヨリ爲シ眞理ヲシテ彫像ノ如クナラシムルモ可ナリ或ハ之ヲ修辭上ヨリ爲シ眞理ヲシテ圖畫ノ如クナラシムルモ可ナリ或ハ數理的論証、引例的説明、若クハ權威ニ訴フルノ方ハ神言ニ訴フルモ可ナリ自己ニ訴フルモ可ナリ聽者ニ訴フルモ可ナリ要スル所ハ聽者ノ皆

承認スル所ノ大眞理ニ訴ヘ且ツ之ヲ指導スルニ在リトス又キ罪人ノ靈魂ヲ救フハ基督ノ名譽ナリト云フ遠大ノ理想ヲ以テ心ヲ充タシ此理想ヲ實ニセシムガ爲メニ全心全力ヲ盡スベシ、人類ノ性情ヲ講究スベシ乃チ人類ノ模範ヲ講究シ其最高ノ模範ヲ講究スベシ、演述ノ平夷ナランガ爲メニ其方法ヲ講究スベシ乃チ演述法ノ精細ナル「其勢力アル」其典雅ナル「自然ナル」他ニ模倣セザル「等」ニ注意スベシ、且ツ聖靈ニ充タカレ又キ聖靈ニ導レシム「チ」求メ殊ニ心身共ニ全ク聖靈ノ強フスル所、清フスル所、進ムル所、導ク所、用ル所トナラン「チ」求ムベシ

(二ツ) 禮拜法此科ニ於テハ祈禱讚美婚姻喪葬ノ諸式等凡

テ教會ノ種々ナル禮拜崇儀ヲ講ス而シテ教會唱歌ノ
 問題モ之レガ中ニ入ルベシ又々希臘教會羅馬教會
 ノ禮法「ルイテル」教會英國教會ノ禮法「メソヂイスト」
 教會ノ規律書「ビイヤリソグ」氏ガ東方教會ノ職務等
 ナ檢セバ益スル所少ナラザラン且ツ公同拜禮ニ於
 テ牧師信者交互誦讀ノ問題ヲモ觀察セシテ要ス
 (三ツ)教導法此科ニ於テハ問答教育ニ關スル利害得失乃
 ナ問答書ノ用法其誤用、幼兒ニ關スル其用法、教會入
 會志願者ニ關スル其用法等ヲ檢ス「ルイサー」ガ大小
 問答書「ハイデルベルグ」問答書英國教會并ビ「ウエ
 ストミンストル」問答書及ビ「シヤフ」氏ガ基督敎國信
 仰ケ條ヲ見ルベシ

(四ツ)教會學ニハ神學中最モ切要ナル科ニシテ殊ニ神學
 生ノ詳細ナル注意ヲ要スルモノマリトス

第一、主觀的ノ要項

(甲)自己ガ身体ノ注意一ツ身体ノ保養乃チ食物、空氣、
 運動、光線、休息及ビ睡眠等ノ注意ニツ身体ノ恢復乃
 チ休息、食物、睡眠及ビ轉地等ノ注意

(乙)自己ガ心智ノ注意乃チ心智ヲシテ健全ニ且ツ間
 斷ナク發達セシムルヲ、諸ノ科學ヲ講學スルヲ、諸種
 ノ書籍ヲ涉獵スルヲ、聖書及ビ神學書ヲ學習スルヲ、
 人類ノ性情ヲ研究スルヲ

(丙)自己ガ心情ノ注意乃チ確定セル信仰ヲ有スルヲ、
 神學講究ノ間ニ在ツテ上帝ガ存在、其愛、「キリスト」ガ

吾人ノ爲メニ就ス業爲、聖靈ガ吾人ノ爲メニ就ス業
 爲及ヒ其他聖書中ニ存スル諸眞理ニ關スル疑惑ヲ
 明ニセント勉ムルヲ、吾人ガ「キリスト」ニ於ケル信仰
 ハ知識的若クハ感情的ノ信仰ヨリモ一層上位ニ在
 ルノ意ヲ確知スルヲ、即チ其信仰ハ吾人ガ教主トシ
 テ贖主トシテ又タ永遠ノ中恵師トシテ「キリスト」ト
 交通スル活ケル信仰タルヲ確認スルヲ、吾人ハ各ノ
 心裏ニ聖靈ヲ受ケ而シテ日ニ之レト接シ其誘導ヲ求
 ムルモノナルノ實ヲ確認スルヲ、上帝ノ聖言ヲ讀ミ
 之ヲ講習シ之ヲ翫味スルヲ、次第ヲ追フテ之ヲ讀ム
 一他ノ部分ヨリモ一層敬虔ノ部分ヲ讀ムヲ、時ヲ定
 メテ之ヲ讀ムヲ、敬ンデ之ヲ讀ミ祈ツテ之ヲ讀ムヲ、

之ヲ理解シ得ンガ爲メニ祈禱シ其眞理ニ感ゼンガ
 爲メニ祈禱スルヲ、數バ祈禱スルヲ、好ンデ祈禱スル
 一、若シ好ンデ祈禱スル能ハスンバ好ンデ祈禱スル
 ニ至ラン爲メニ祈禱スルヲ、祈禱ハ上帝トノ交通ナ
 ルノ實ヲ得ルヲ、確實ニ在マシ給フ神トシテ、現實ニ
 在マシ給フ神トシテ、大慈ナル天父トシテ之ニ祈禱
 スルヲ、時ヲ定メテ祈禱スルヲ、平生心裏ニ祈禱スル
 一、間斷ナク祈禱スルヲ、上帝ト上帝ニ關スル諸ノ事
 物トチ沈思スルヲ、吾人ガ爲メニ死セシメン爲メ「キ
 リスト」ヲ送レル上帝ノ愛ト吾人ガ惡性ヲ矯正シ吾
 人ガ心、情ヲ更新シ而シテ吾人ト共モナラシメンガ爲
 メ聖靈ヲ送レル上帝ノ愛トチ沈思スルヲ、獨自各々

ナル親躬祈禱及ビ仁愛ノ業爲ト并ニ多數一般ナル
 事例及ビ業爲トニヨツテ他人ノ爲メニ勉勵スルヲ、
 凡テノ事物ニ於テ上帝ニ從順ナルヲ求ムルヲ、勉メ
 テ上帝ト與モナリ、靈魂ノ光、靈魂ノ命、其喜ビ其導者
 トシテ心裏ニ上帝ヲ受クルヲ、勉メテ真理ノ價值、出
 精ノ價值、時間ノ價值、嚴正(定決セル時間ヲ確守スル
 一)ノ價值ヲ學ブヲ、聖物尊敬ノ心ヲ修ムルヲ、負債ヲ
 爲ササルノ習慣ヲ養フヲ

第二、客觀的ノ要項

自己以外ノ事ニ在ツテハ先ヅ第一ニ何處ニ此教會
 ノ事業ヲ始ムベキカノ問題ヲ講スルヲ必要ナリ乃
 家族ノ問題、始業ノ問題、教會ノ大目的、一ヶ人トシテ

ノ感化ト動作トノ價值、人ヲ基督ニ導ク最良ナル方
 法等ヲ講ズルヲ此ノ科ニ關シテハ「シエツト」氏說教
 學、教會學「ホツピン」氏、教會學「カルク」氏、ガ「リ」
 「ヅ」イ「ヅ」ル、
 說「フ」イ「ン」ニ「一」氏、ガ「リ」
 「ヅ」イ「ウ」ル、
 說ヲ見ルベシ

(五)内國傳道法

コハ内國ニ存スル教會ノ總ユル運動ヲ
 概括シテ論ズルモノ故ニ教會ノ大目的ヲ講シ之レ
 ト共ニ太十三章卅三「パンダテ」ノ譬ヘテ察シ生子中
 心ノ例「バンヤン」樹ノ例トヲ察スルヲ必要ナリ各教
 會ハ其役者ニ對シテ幾何ノ權理アルカ其權限ハ如
 何各會員ハ其福音ヲ傳フルニ於テ幾何ノ權限アル
 カ其權理ハ如何如何セバ各會員ニシテ其責任ヲ感
 シ人ヲシテ「キリスト」ニ來ヲシメンガ爲メニ勉勵ス

ルニ至ル可キカ等ノ問題ヲ觀察シ教會ヲ益センガ爲メニハ如何ナル委員ヲ撰任ス可キカ近接地ノ傳道事業ト遠隔地ノ傳道事業トニ於ケル教會ノ關係ハ如何日曜學校ハ如何其利益其方法ハ如何等ノ問題ヲ講究センヲ要ス此科ニ在ツテハ「ワシントン」グランドン「氏ガ教會運動論」スツロング「氏ガ合衆國諸教會論」シー、エル、グツデル「ライマン、ビーチャー」「チットルトン」「フィンニー」「ムーデー」及ヒ其他諸氏ノ傳記ヲ見ルベシ

(六ツ)外國傳道法此科ニ在ツテハ總ユル人類ニ福音ヲ宣傳ス可キ教會ノ責任ト外國傳道事業ノ内國教會ニ於ケル反射的感化トヲ觀察シ外國傳道事業ノ最良

方法ト近世傳道ノ結果トヲ講究スルヲ要ス「トム」フソソ「氏ガモラビヤン」傳道錄「アソデルソン」氏ガ「サ」ンドウ「イツチ」島記事「エリス」氏ガ「マダガスカル」事情記「カンミンダ」氏ガ「フイシ」家族記事及ヒ「ヘンリー」マ」チン「シヤドソン」「シヨソ」ウイリヤムス「監督」パツ」テソソ「モフツット」「リビソグストン」「グツデル」「シヤウフラー」等諸人ノ傳記ヲ見ルベシ

(七ツ)教會政治學此科ニ在ツテハ各種ノ教會政治ト其結果トヲ講シ又々各種政治ノ利害得失ト其危險ナル点トヲ觀察シ殊ニ如何ナル政治ノ最モ善ク日本今日ノ信者ニ適スルヤヲ觀察スベシ

基督嘗テ言ヘルアリ曰ク汝我ヲ世ニ遣シ、如ク我モ亦タ

彼等ヲ世ニ遣セリト吾人ハ今マ學問講習ノ際ニ於テ處世
 準備ノ時ニ於テ須ク基督ガ此ノ言ヲ實ニスベシ又々人生
 ノ短促ナル所以ノ意ヲ確認シ人生ノ大目的ハ人ヲ救フニ
 在ル所以ト人ヲ救フノ事業ハ太般皆十躬親ノ事業タル所
 以ノ實ヲ體驗スベシ而シテ專ラ此事業ノ爲メニ準備シ身ヲ
 歸シテ之レニ從事シ今マ現ニ在校ノ間ニ於テ此事業ニ從
 フベシ能ク斯ノ如ク人ヲ救ハンガ爲メニ躬親ヲ黽勉セバ
 其學問講習ノ点ニ於テモ吾人ヲ益スルニ必ズ少々ナラザ
 ルベシ且ツ上帝ノ斯カル事業ヲ祝福シ給ヘルヲ觀レバ其
 吾人ガ爲ササル可ラザル最モ價值アル事業タルヲ明白ナ
 リ予ハ實ニ吾人ガ確ク此大目的ヲ心ニ定メテ學問講習ヲ
 事トシ現ニ今ニ於テ直ニ此ノ人ヲ救フノ事業ニ從ヒ(此事

業タル蓋シ救ハレザルモノ、吾人ガ達スル處ニアラザル
 ニ至ラザルヨリハ常ニ存續スルモノタルナリ)テ而ル後チ
 始メテユ、ニ永遠ノ喜樂ト得意トノ圓滿完全ヲラントテ
 信ズルナリ

95-13

明治廿三年五月一日印刷
同年五月二日出版

(定價八錢)

發行兼印刷者

大阪市西區土佐堀
三丁目卅八番屋敷

今村謙吉

譯者

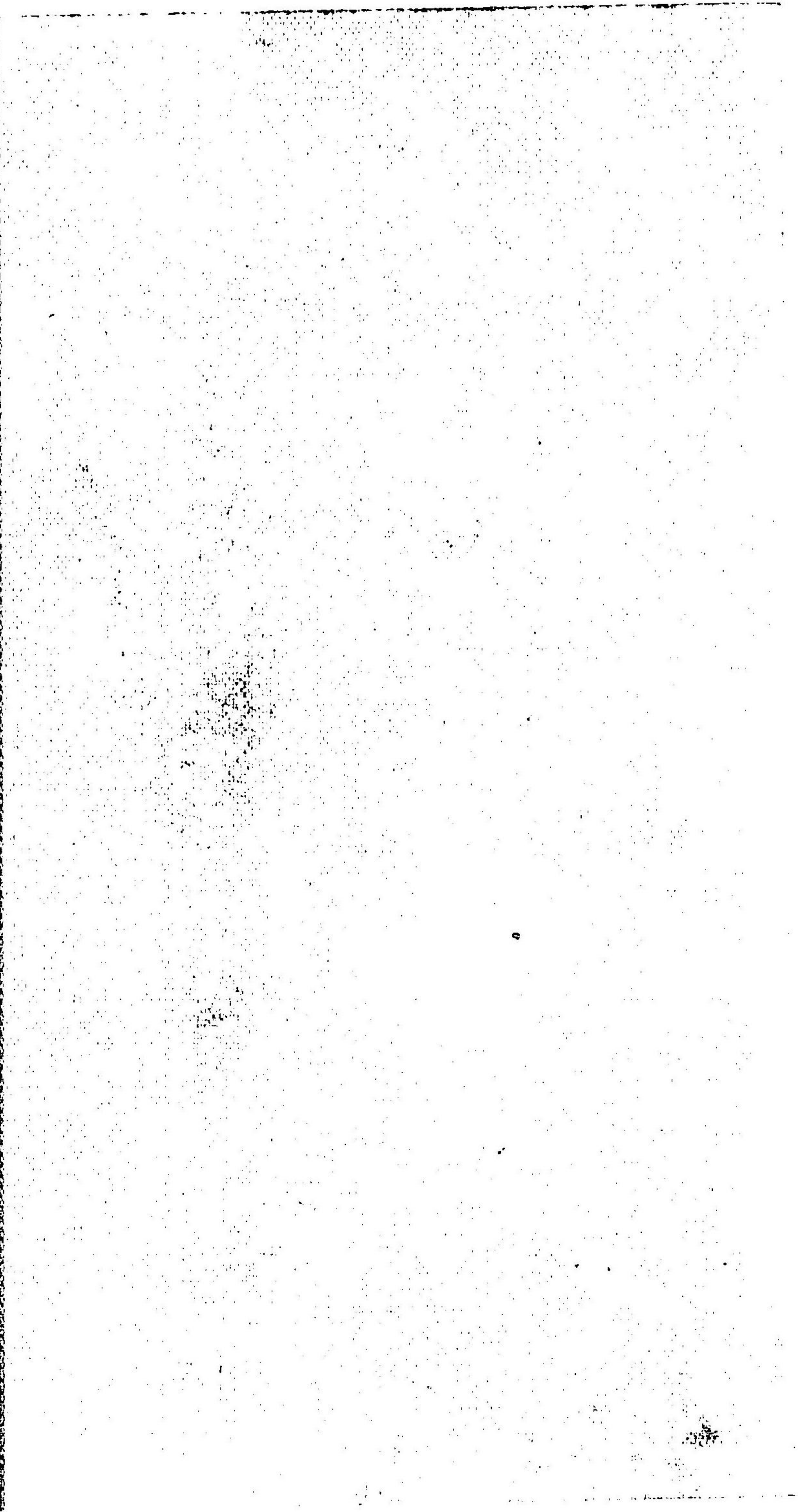
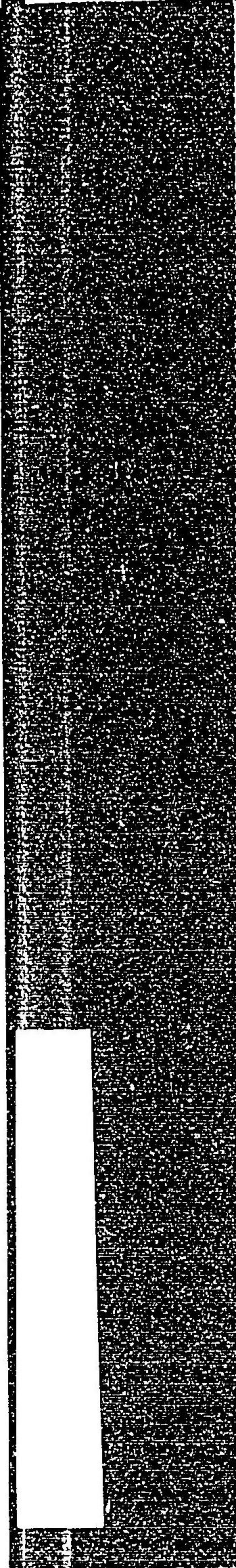
京都市上京區第十組新北
小路町第十六番戶

寺澤精一

印刷所

大阪市西區土佐堀
三丁目卅八番屋敷

福音社



19

154

020773-000-3

19-154

神学総論

ゼー・デ・デビス/著

M23

ABI-0598

